2018 年 2 月 23 日

岡山県感染症週報 2018 年 第 7 週（2 月 12 日 ～ 2 月 18 日）

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

◆2018 年　第 7 週（2 / 12 ～ 2 / 18）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 5 週　5 類感染症　カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症　1 名（40 代　男）

第 6 週　2 類感染症　結核　4 名（60 代　男　1 名、70 代　女　1 名、80 代　男　1 名・女　1 名）

5 類感染症　梅毒　1 名（40 代　男）

百日咳　1 名（乳児　男）

第 7 週　2 類感染症　結核　6 名（30 代　男　1 名、40 代　女　1 名、70 代　男　1 名、80 代　男　1 名・女　2 名）

5 類感染症　侵襲性肺炎球菌感染症　3 名（50 代　男　1 名、70 代　男　2 名）

梅毒　1 名（30 代　男）

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○インフルエンザは、県全体で 2,944 名（定点あたり 42.31 → 35.05 人）の報告があり、前週より減少しました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 119 名（定点あたり 2.20 → 2.20 人）の報告があり、前週と同数でした。

○感染性胃腸炎は、県全体で 275 名（定点あたり 5.85 → 5.09 人）の報告があり、前週よりわずかに減少しました。

【第 8 週　速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 55 施設でありました。（2 月 19 日～22 日）

---

1. 梅毒は、第 6 週に 1 名、第 7 週に 1 名の報告があり、2018 年第 7 週まで（～2/18）の報告数は 18 名となりました。近年、全国的に感染者が急増しており、大きな問題となっています。県内の発生状況など詳しくは、「今週の注目感染症」をご覧ください。

2. インフルエンザは、県全体で 2,944 名（定点あたり 42.31 → 35.05 人）の報告があり、前週より減少しました。患者数は減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。岡山県は『インフルエンザ警報』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備中地域（47.33 人）、倉敷市（46.19 人）、真庭地域（39.67 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『2017/2018 年シーズン　インフルエンザ情報「インフルエンザ警報」発令中! 』をご覧ください。

3. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 119 名（定点あたり 2.20 → 2.20 人）の報告があり、前週と同数でした。患者数の大きな増加はみられませんが、過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、備前地域（3.50 人）、岡山市（3.00 人）、倉敷市（2.27 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「今週の注目感染症」をご覧ください。

4. 感染性胃腸炎は、県全体で 275 名（定点あたり 5.85 → 5.09 人）の報告があり、前週よりわずかに減少しました。地域別では、備前地域（7.60 人）、備北地域（5.75 人）、備中地域（5.29 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「感染性胃腸炎週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『2017/2018 年　感染性胃腸炎情報』をご覧ください。

３月１日（木）～３月７日（水）は「子ども予防接種週間」です。

４月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう。

我が国では、毎年 3 月 1 日～7 日を「子ども予防接種週間」とし、予防接種への関心と予防接種率の向上を図るため、さまざまな企画や啓発活動を実施しています。

岡山県の協力医療機関では、この期間内にワクチン接種を行うとともに、ワクチン接種に関する相談にも応じています。また、協力医療機関によっては土曜日、日曜日など、通常の診療時間外の接種も行っています。

平成 29 年度「子ども予防接種週間」の実施について（厚生労働省ホームページ）

岡山県内の協力医療機関一覧表　（岡山県医師会ホームページ）

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★★★★★	RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★★
感染性胃腸炎	↘	★★★	水痘	↓	★
手足口病	↓	★	伝染性紅斑	↓	
突発性発疹	↗	★	ヘルパンギーナ	→	
流行性耳下腺炎	→	★	急性出血性結膜炎	→	
流行性角結膜炎	↓	★	細菌性髄膜炎	→	
無菌性髄膜炎	→		マイコプラズマ肺炎	→	
クラミジア肺炎	→		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	↑	★★★

【記号の説明】 前週からの推移： ↑ ：大幅な増加　↗ ：増加　→ ：ほぼ増減なし　↓ ：大幅な減少　↘ ：減少

大幅 ：前週比100%以上の増減　　増加･減少 ：前週比10～100%未満の増減

発生状況 ：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

空白 ：発生なし　★ ：わずか　★★ ：少し　★★★ ：やや多い　★★★★ ：多い　★★★★★ ：非常に多い

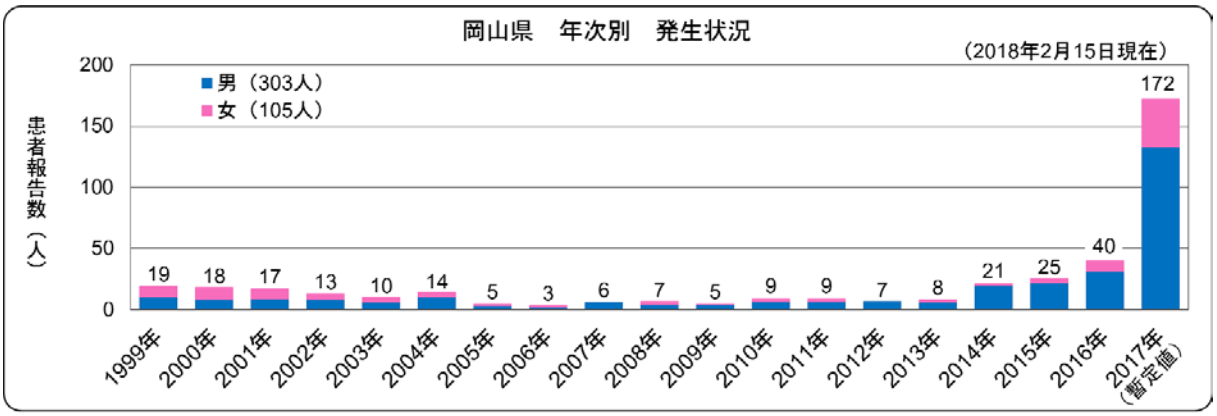
今週の注目感染症（1）

梅毒

【岡山県の発生状況】

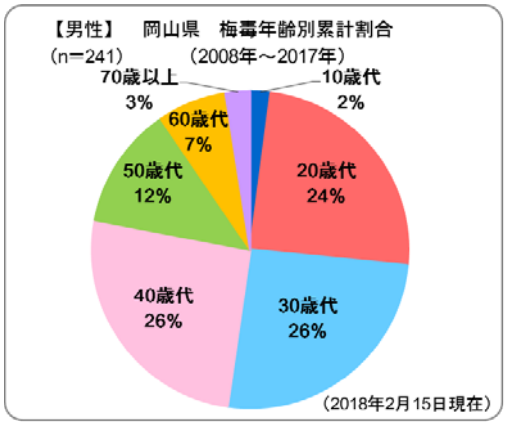
1.　年次別発生状況

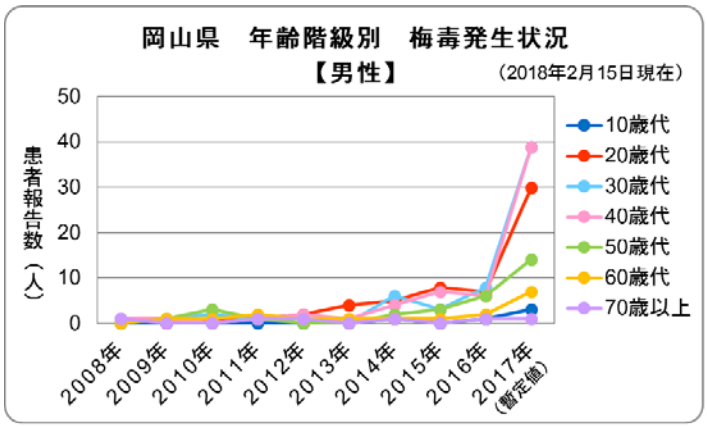
2018 年第 7 週まで（～2/18）の岡山県の報告数は、すでに 18 名となっており、前年同時期（9 名）と比較して倍増しています。1999 年～2013 年までは、患者報告数は 20 名未満で推移していましたが、2014 年以降急激に増加しています。特に 2017 年の年間報告数（暫定値）は、172 名となり、前年（40 名）の 4 倍以上となりました。男女別では、患者報告数の約 8 割が男性で、女性は男性に比べて少ないものの、2015 年から増加傾向にあります。特に 2017 年の女性報告数は 39 名となり、2015 年（3 名）の 13 倍となっています。

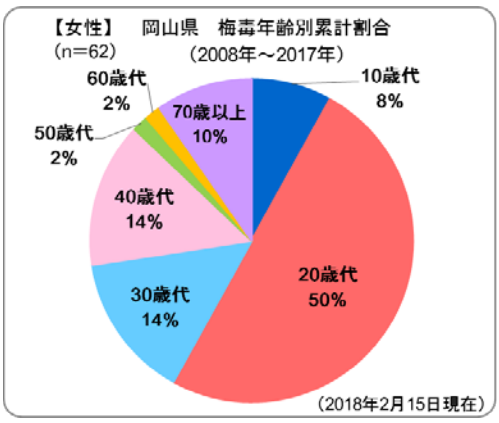


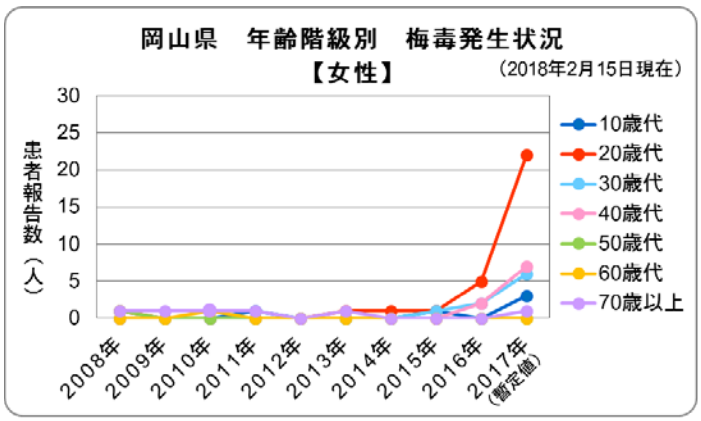
2.　年齢別発生状況

2008 年～2017 年までの年齢別累計割合では、男性は 30 歳代・40 歳代（各 26%）、20 歳代（24%）50 歳代（12%）の順で高くなっています。女性は 20 歳代が半数を占めており、特に 2016 年から 20 歳代で急増しています。



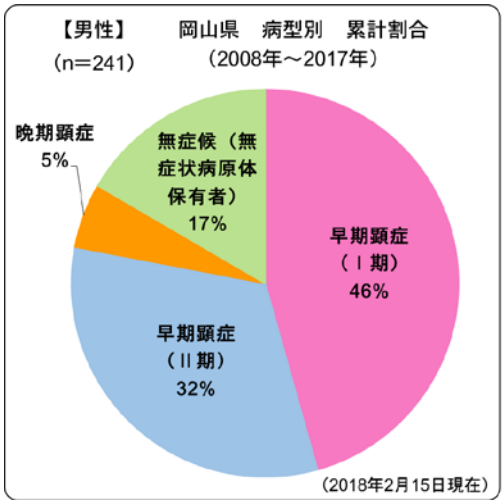


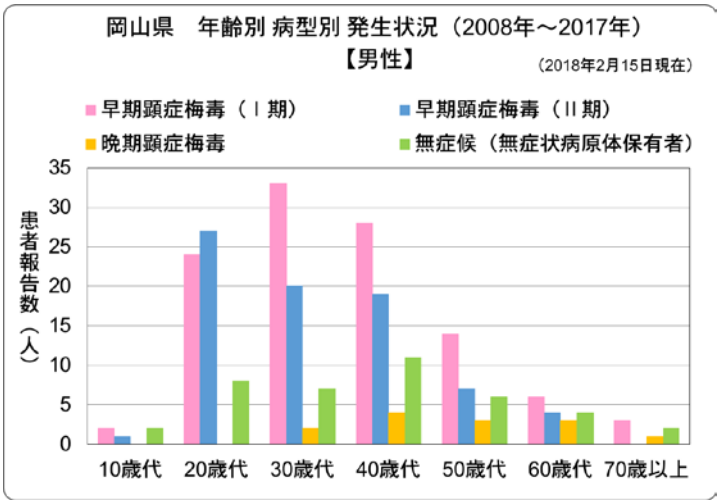


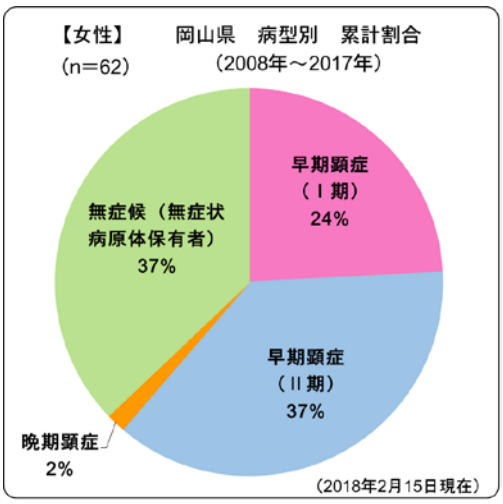


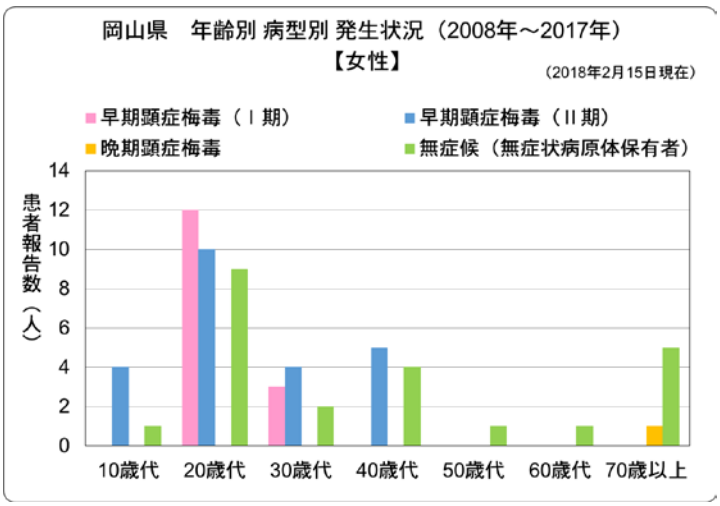
3.　病型別発生状況

2008 年～2017 年までの病型別累計割合をみると、早期顕症梅毒（Ⅰ期、Ⅱ期）の割合が男女ともに高くなっています。また、女性は男性に比べて無症状病原体保有者の割合が高くなっており、20～40 歳代と 70 歳以上で多くなっています。先天梅毒は、2002 年に 1 名、2003 年に 1 名報告されています。その後の発生報告はありませんが、近年、女性の報告数が増加しており、特に 20 歳代を中心とした妊娠可能な年齢層で急増していることから、今後、先天梅毒の発生が懸念されます。



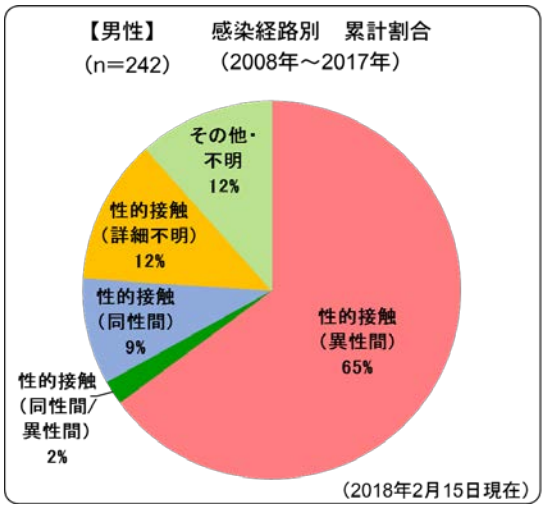


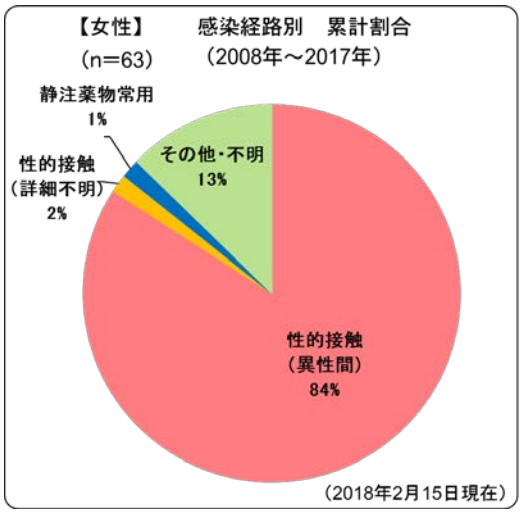




4.　感染経路別発生状況

2008 年～2017 年までの感染経路別累計割合では、男女ともに異性間性的接触による感染の割合が高くなっています。

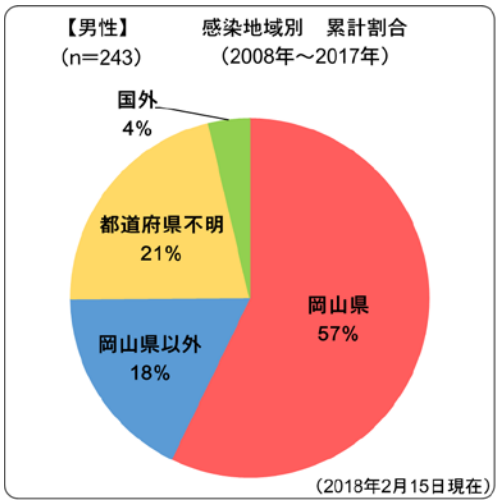


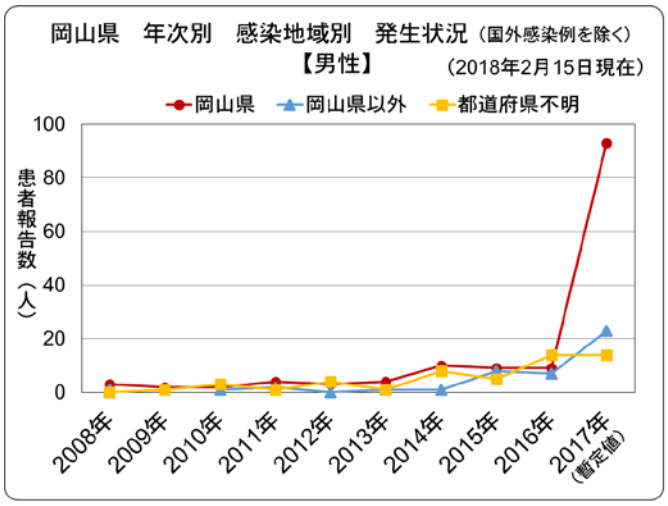


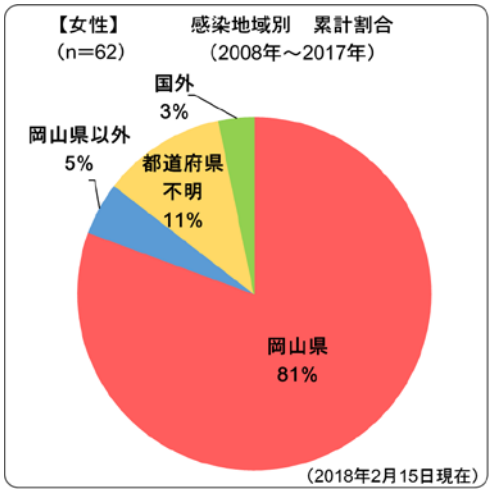
複数の感染経路が疑われる症例があるため、データ数（n）と患者報告数とは一致していません。

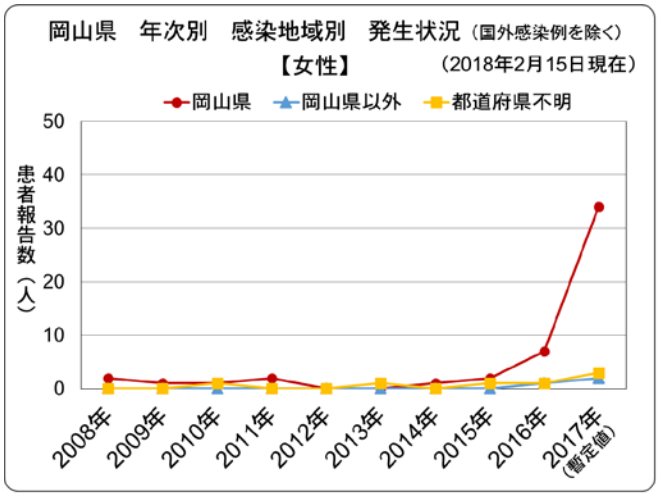
5.　感染地域別発生状況

2008 年～2017 年までの感染地域別累計割合では、男性は県内感染が 57%、県外は 18%となっています。女性は、県内感染が 81%、県外は 5%で、男性に比べて県内感染の割合が高くなっています。年次別発生状況をみると、男性は 2017 年に県内感染が急激に増加しています。







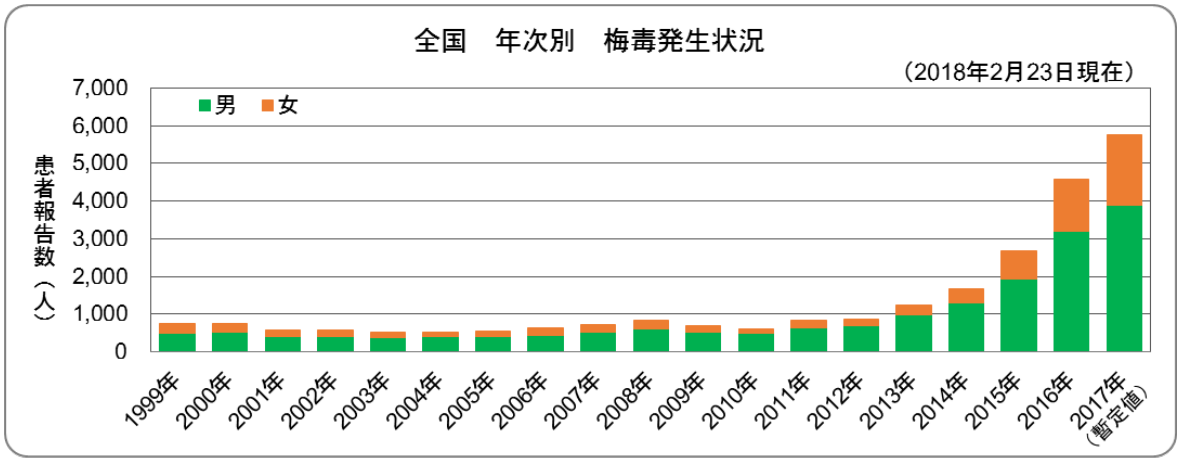


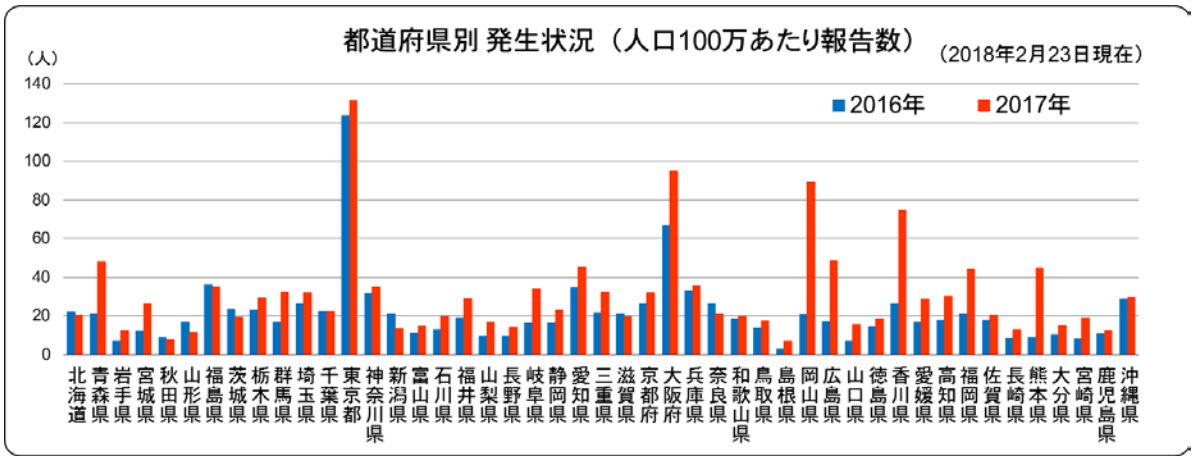
複数の感染地域が疑われる症例があるため、データ数（n）と患者報告数とは一致していません。

【全国の発生状況】

1.　年次別・都道府県別発生状況

2017 年の年間報告数（暫定値）は 5,820 名となり、1999 年以降最も多くなりました。人口 100 万あたり報告数を都道府県別でみると、2017 年には東京都（131.48 人）、大阪府（95.03 人）、岡山県（89.49 人）、香川県（74.80 人）、広島県（48.52 人）の順で多くなっており、大都市に限らず、地方でも増加しています。





人口100万あたり報告数*上位10位の自治体

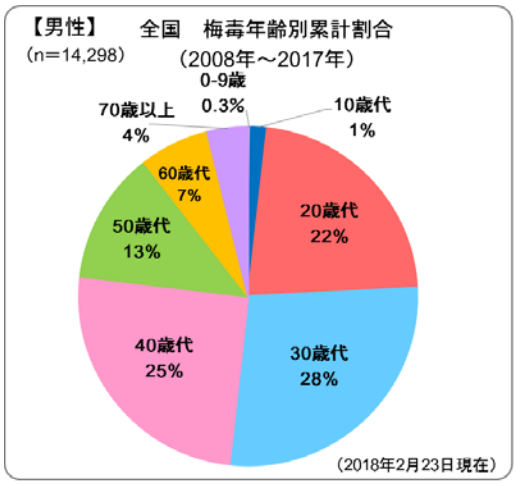
順位	2016年 自治体	2016年 人口100万あたり報告数*
1	東京都	123.64
2	大阪府	66.86
3	福島県	36.05
4	愛知県	34.61
5	兵庫県	33.24
6	神奈川県	31.78
7	沖縄県	28.59
8	香川県	26.64
9	埼玉県	26.56
10	京都府	26.44
21	岡山県	20.81

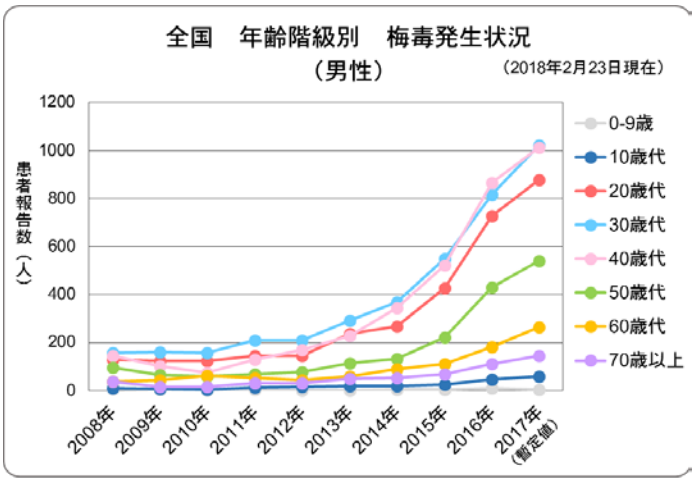
順位	2017年 自治体	2017年 人口100万あたり報告数*
1	東京都	131.48
2	大阪府	95.03
3	岡山県	89.49
4	香川県	74.80
5	広島県	48.52
6	青森県	48.17
7	愛知県	45.30
8	熊本県	44.79
9	福岡県	44.49
10	兵庫県	35.77

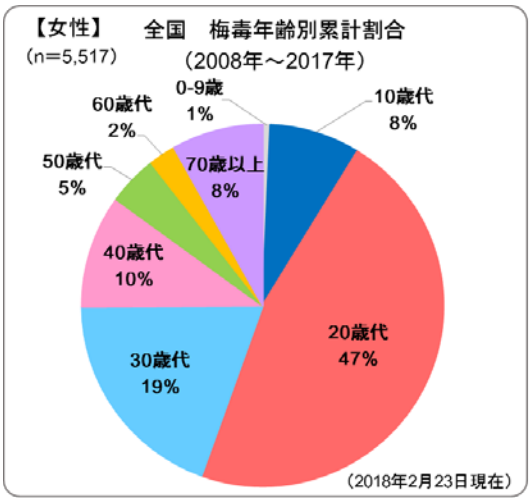
*人口は2015年国勢調査を使用

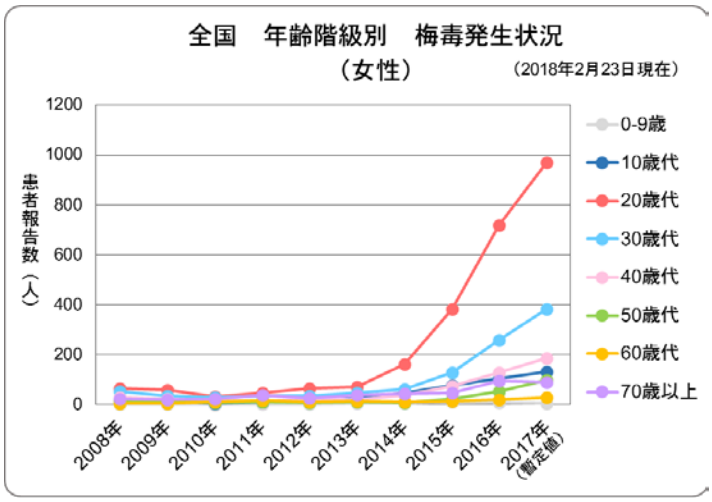
2. 年齢別発生状況

年齢別累計割合では、男性は 30 歳代（28%）、40 歳代（25%）、20 歳代（22%）の順で高くなっています。女性は、20 歳代（47%）が最も高く、次いで 30 歳代（19%）、40 歳代（10%）の順となっています。特に 2013 年頃から男性は 20～40 歳代、女性は 20 歳代の報告数が大きく増加しています。



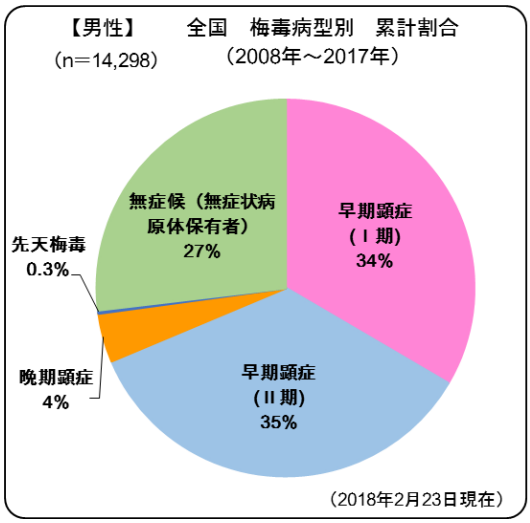


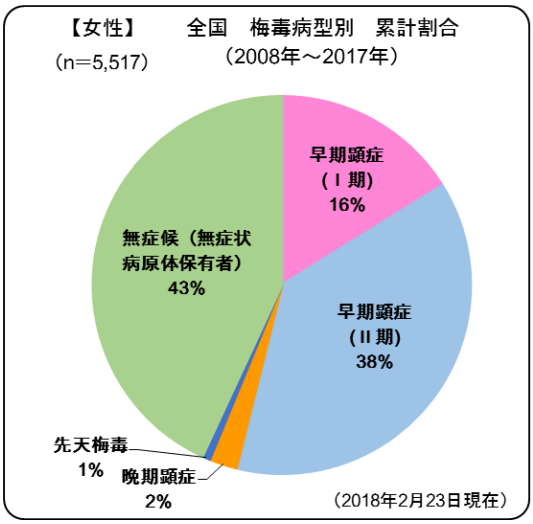


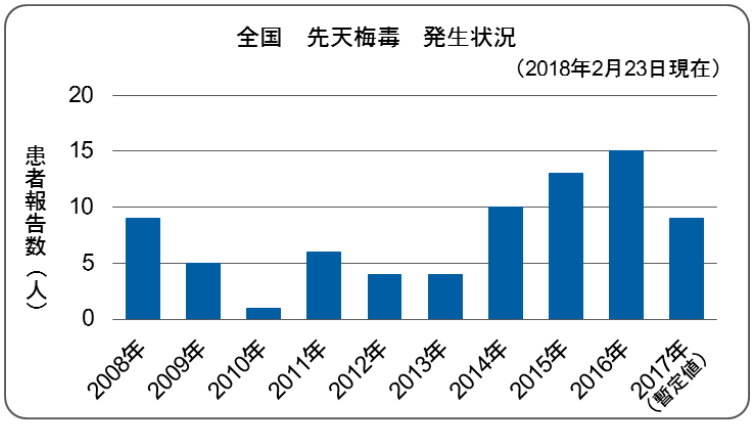


3.　病型別発生状況

病型別累計割合では、早期顕症梅毒（Ⅰ期、Ⅱ期）が男性は 69%、女性は 54%で、男女ともに高くなっています。また、女性は無症状病原体保有者が 43%を占めており、早期顕症梅毒Ⅰ期（16%）とⅡ期（38%）を上まわっています。20 歳代を中心とした女性の報告数が増加したことに伴い、先天梅毒の報告数も 2014 年以降増加し、毎年 10 名以上報告されています。2017 年には暫定値で 9 名となりましたが、依然として女性の感染者が増加していることから、今後も発生動向に注意が必要と思われます。







【今後に向けての課題】

岡山県における梅毒患者の急増は確認されていますが、その要因については明らかではありません。今後の対応として、詳細な調査や早期発見・早期治療に繋がる啓発活動など、県全体で取り組んでいくことが求められています。

【梅毒とは】

梅毒は、主に感染している人との性器、口、肛門などの粘膜を介した性行為によって起こる感染症です。原因となる病原体は、梅毒トレポネーマというスピロヘータ（細菌の一種）で、病名は症状にみられる赤い丘しんが楊梅（ヤマモモ）に似ていることに由来します。症状が出たり消えたりするⅠ期、Ⅱ期（【症状】の項を参照）は、排菌していても自覚症状がないため、感染に気づきにくいと言われます。検査や治療が遅れると、病気が進行し、パートナーへうつす可能性があります。また、AIDS（後天性免疫不全症候群）など他の性感染症にもかかりやすくなります。

感染の有無は血液検査（抗体検査）で分かります（感染初期においては、感染部位から直接病原体の検出による診断が可能です）。抗体ができるまでに時間がかかるため、感染の可能性があった日から十分な期間（約 3 週間）をおいて検査をする必要があります。早期に治療すれば完治しますが、一度感染して抗体が体内にあっても終生免疫は得られないため、感染が繰り返されることがあり、再感染の予防が必要です。

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染することがあり、先天梅毒（【症状】の項を参照）の原因になります。岡山県では妊婦検診の際、無料で梅毒の血液検査を実施して、母子の健康状態の確認を行っています。

【症状】

感染後、約 3～6 週間程度の潜伏期間を経て、経時的に様々な臨床症状が出現します。その間、症状が軽快する時期があるため、治療の遅れにつながることがあります。感染後の時間経過による特徴は次のとおりです。

第Ⅰ期（感染部位の病変）：感染後約 3 週間

感染して約 3 週間後、感染がおきた部位（主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等）にしこりができることがあります（初期硬結）。また、股の付け根の部分（鼠径部）のリンパ節が腫れることもあります。痛みがないことが多く、治療をしなくても症状は自然に軽快します。しかし、体内から病原体がいなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性もあります。感染した可能性がある場合には、この時期に梅毒の検査を受けることが重要です。

第Ⅱ期（病原体が血液によって全身に移行）：感染後数か月

治療をしないで 3 か月以上を経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発しんが出ることがあります。小さなバラの花に似ていることから「バラ疹（ばらしん）」とよばれています。発しんは治療をしなくても数週間以内に消えることが多く、また、再発を繰り返すこともあります。しかし、抗菌薬で治療しない限り、梅毒トレポネーマは体内に残っており、梅毒が治ったというわけではありません。

晩期顕症梅毒：感染後数年

感染後、数年を経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）が発生することがあります。また、心臓、血管、脳など複数の臓器に病変が生じ（神経梅毒）、場合によっては死に至ることもあります。現在では、比較的早期から治療を開始することが多く、抗菌薬が有効であることなどから、晩期顕症梅毒に進行することはほとんどありません。

先天梅毒

梅毒に感染している母体から胎盤を通じて胎児に伝播される多臓器感染症です。症状の出現時期によって早期（生後 2 年以内）と晩期（生後 2 年以降～20 年）に分類され、感染乳児の 2/3 は、出生時は無症状で身体所見は正常とされています。早期先天梅毒では、生後まもなく皮膚病変に加え、鼻閉、肝脾腫などの症状が認められます。晩期先天梅毒では、乳幼児期は症状を示さずに経過し、学童期以降に Hutchinson3 徴候（実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯）などの症状がみられます。

【治療・予防】

ペニシリン系の抗菌薬が有効です。ペニシリン系抗菌薬による治療は、海外では筋肉注射が主ですが、日本では内服のみに限られています。内服期間は通常 3～4 週間ですが、医師が治療を終了とするまでは、処方された薬を確実に飲むことが大切です。予防は、感染者、特に感染力が強い第Ⅰ期、第Ⅱ期の感染者との性行為を避けることが基本です。コンドームの適切な使用により感染の可能性は低くなりますが、完全に予防できる訳ではないため、皮膚や粘膜に異常があれば、早めに医療機関を受診しましょう。また、梅毒の感染がわかった場合は、周囲で感染の可能性がある方（パートナー）も検査を行い、必要に応じて治療をすることが重要です。

梅毒の検査は、県内の保健所・支所（無料、匿名、要予約）又は医療機関（有料、要予約）で受けることができます。詳しくは、保健所・支所又は医療機関におたずねください。

梅毒に関するＱ＆Ａ（厚生労働省）

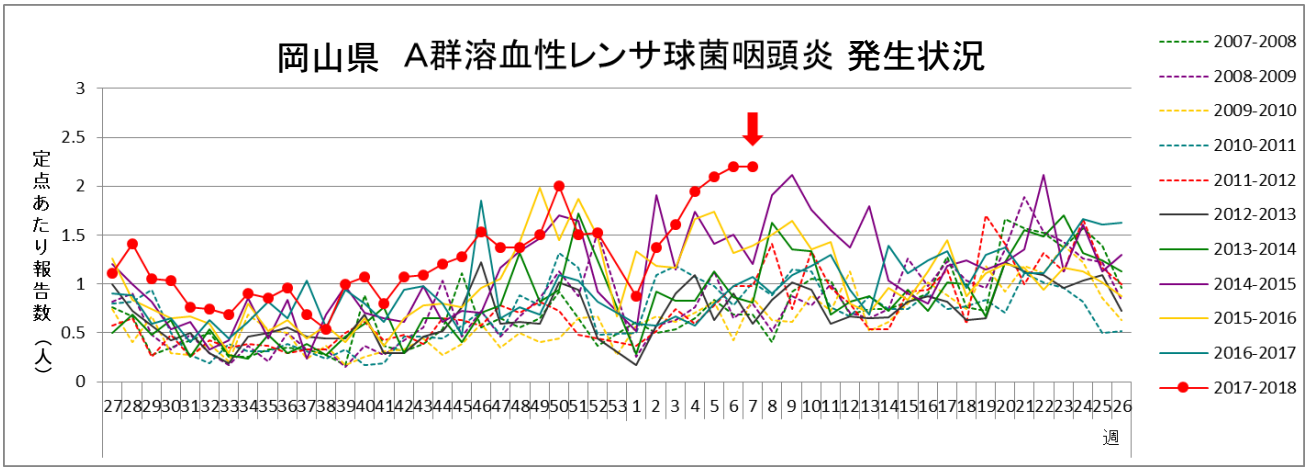
梅毒とは（国立感染症研究所）

平成 29 年度　保健所における HIV 抗体検査・性感染症検査・肝炎検査日時

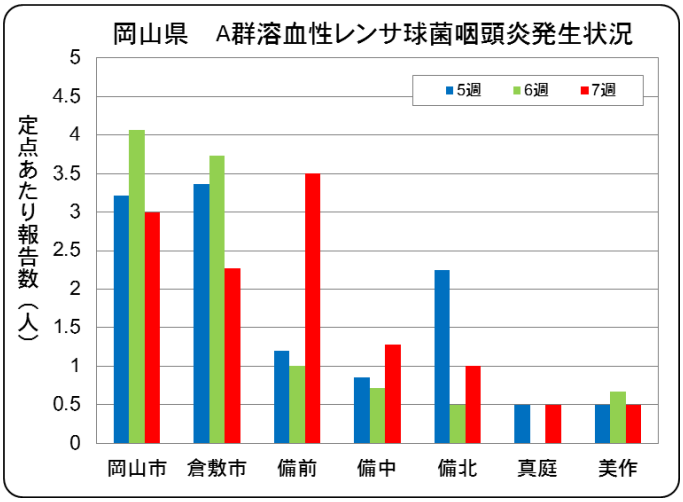
今週の注目感染症（2）

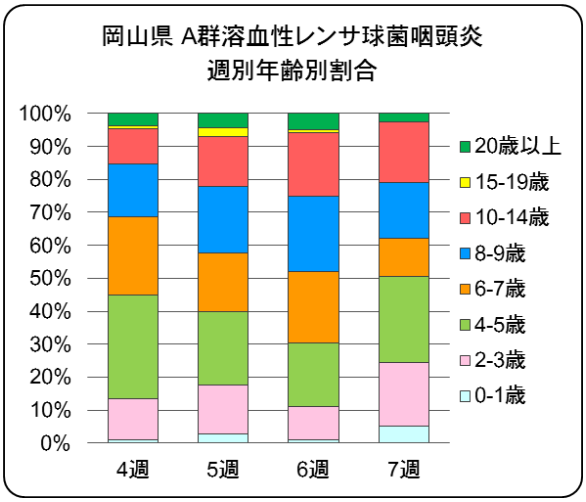
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【岡山県の発生状況】



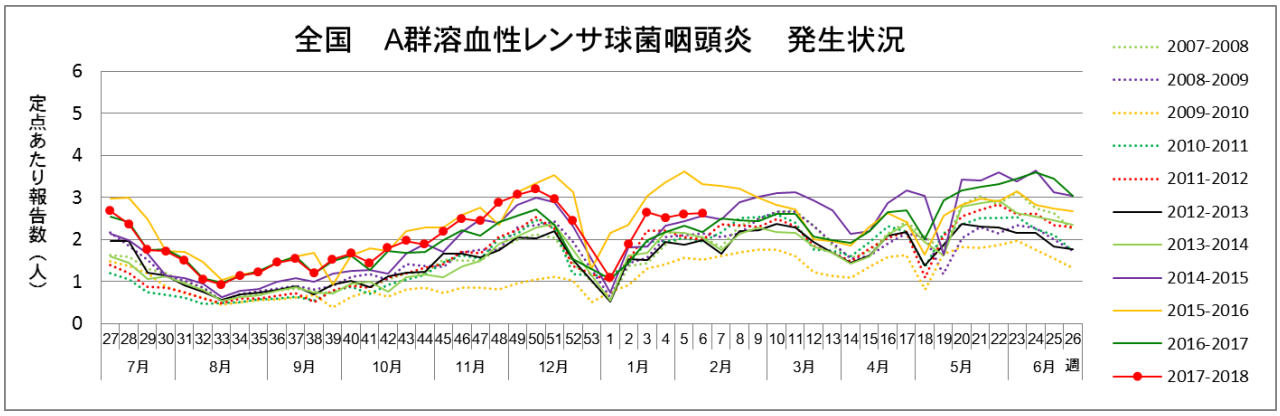
※A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週～翌年 26 週を 1 シーズンとしてグラフを作成しています。

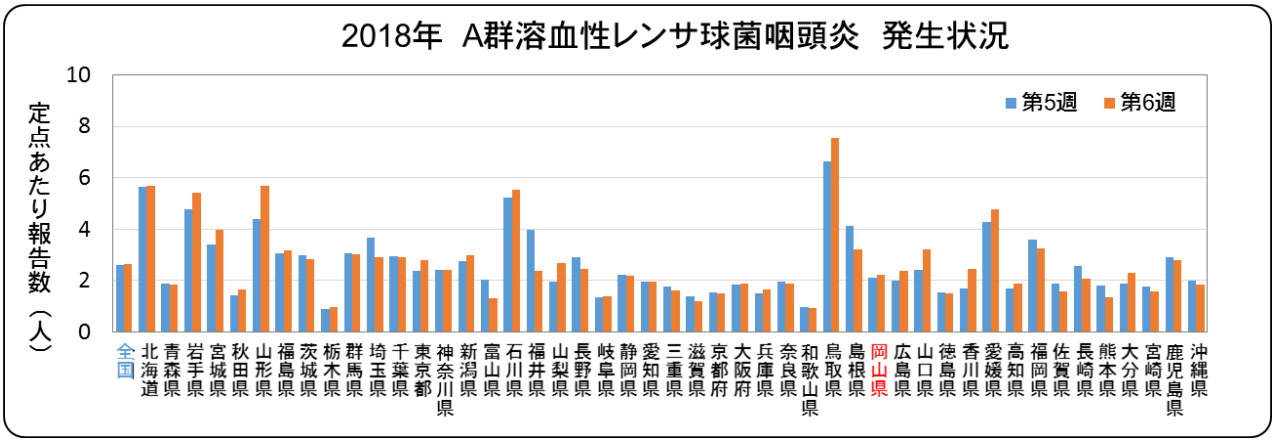




A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 119 名（定点あたり 2.20 → 2.20 人）の報告があり、前週と同数でした。患者数の大きな増加はみられませんが、過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、備前地域（3.50 人）、岡山市（3.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に備前地域（1.00 → 3.50 人）では前週より大きく増加しています。第 7 週年齢別割合では、4－5 歳　26%、2－3 歳　19%、8－9 歳　17% の順で高くなっており、5 歳以下の乳幼児の割合が前週より増加しています。

【全国の発生状況】





全国の第 6 週（2/5～2/11）の発生状況は、定点あたり報告数が 2.63 人であり、前週（2.61 人）とほぼ同数でした。都道府県別では、鳥取県（7.53 人）、北海道（5.69 人）、山形県（5.67 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣県でも多くの患者が報告されていますので、県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

IDWR 速報データ 2018 年第 6 週（国立感染症研究所）

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による上気道感染症で、感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて、2 つの報告数のピークが確認されます。

【症状】

潜伏期間は 2～5 日で、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは苺舌（イチゴのように赤くブツブツしている舌）がみられることがあります。通常、

発熱は 3～5 日以内に下がり、主症状は 1 週間以内に消失する予後が良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。猩紅熱では、発熱開始後 12～24 時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現し、針頭大の皮しんにより、皮膚が紙やすり様の手触りになることがあります。

【治療・予防】

治療には、ペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合は、マクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。いずれの薬剤も少なくとも 10 日間は、確実に投与することが必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは（国立感染症研究所）

2018 年 2 月 23 日

インフルエンザ週報　2018 年 第７週 （2 月 12 日 ～ 2 月 18 日）

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

➢ 岡山県の流行状況

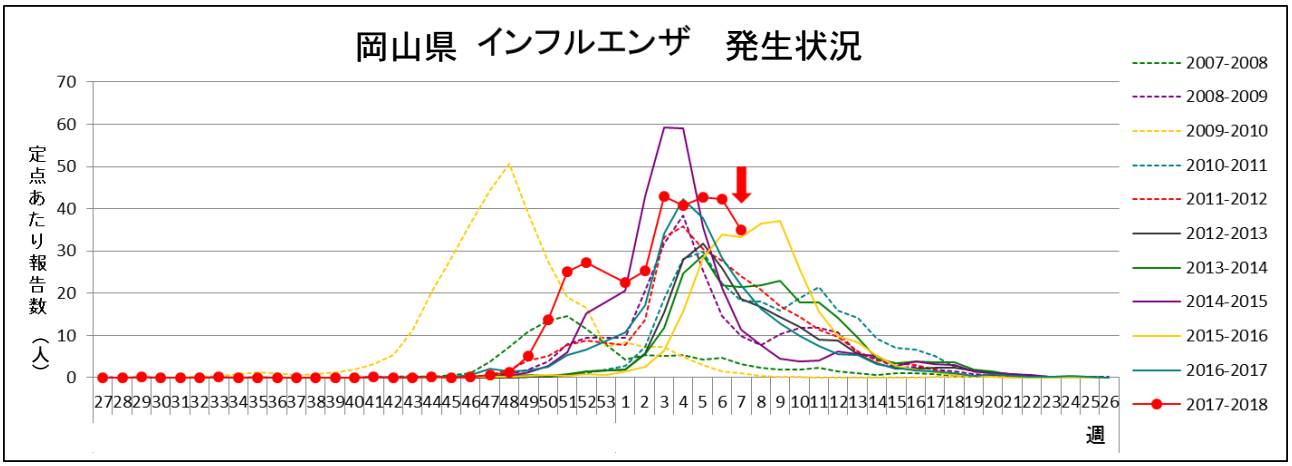
○インフルエンザは、県全体で 2,944 名（定点あたり 35.05 人）の報告がありました。（84 定点医療機関報告）

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 106 施設でありました。

○インフルエンザによる入院患者 15 名の報告がありました。

【第 8 週　速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 55 施設でありました。（2 月 19 日～22 日）



※　インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 2,944 名（定点あたり 42.31 → 35.05 人）の報告があり、第 3 週（1/15～1/21）以降横ばいで推移していましたが、約 1 か月ぶりに減少しました。患者数は減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、大きな流行が継続しています。岡山県は、『インフルエンザ警報』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、備中地域（47.33 人）、倉敷市（46.19 人）、真庭地域（39.67 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。多くの地域で患者の減少がみられましたが、備中地域では前週より増加しています。

第 7 週の学校等の臨時休業は、106 施設から報告がありました。前週（179 施設）より減少したものの、第 8 週（2/19～）速報でも、すでに多くの施設から報告されているため、ひきつづき幼稚園・小学校・中学校などを中心とした集団の中での感染に注意してください。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』、『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

インフルエンザ Q&A（厚生労働省）

◆インフルエンザは流行が継続しています。さらなる感染予防に努めましょう。

【 予　防 】

* 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
* 人混みでは、マスクを着用しましょう。
* 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
* 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度（50～60%）を保ちましょう。

【 かかったかな? という時には 】

* 早めに医療機関を受診しましょう。
* 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
* 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。

1.　地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	**患 者 数**	**2,944**	↘	備　中	患 者 数	568	↗
	定点あたり	**35.05**			定点あたり	47.33	
岡山市	患 者 数	669	↘	備　北	患 者 数	139	→
	定点あたり	30.41			定点あたり	23.17	
倉敷市	患 者 数	739	↘	真　庭	患 者 数	119	→
	定点あたり	46.19			定点あたり	39.67	
備　前	患 者 数	403	↘	美　作	患 者 数	307	↘
	定点あたり	26.87			定点あたり	30.70	

【記号の説明】 前週からの推移　↑：大幅な増加　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↓：大幅な減少　↘：減少

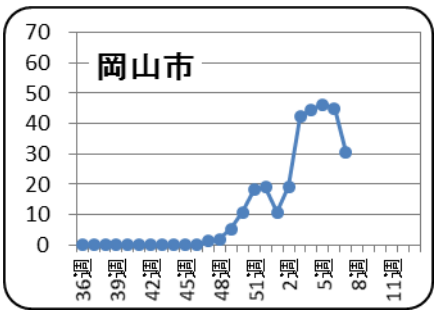
大幅：前週比 100%以上の増減　　増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

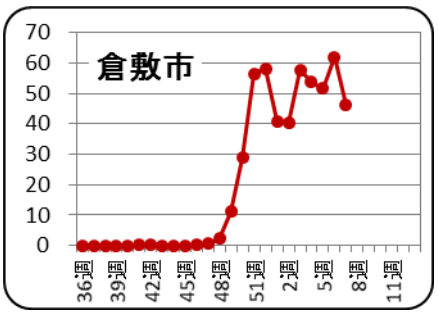
インフルエンザ感染症マップ

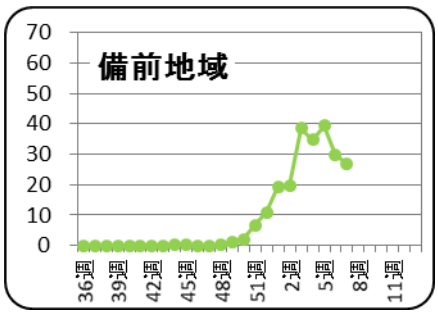
＜インフルエンザ発生レベル 基準＞

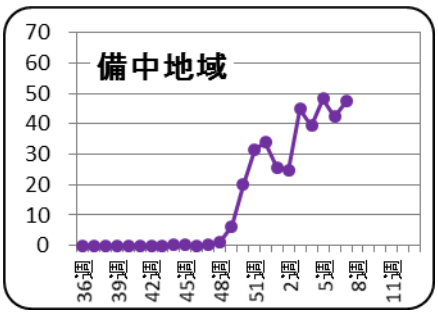
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

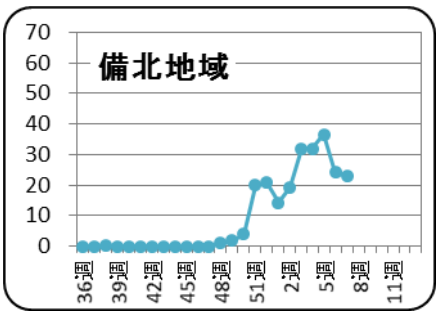
レベル1	報告なし
基準値	基準値
0＜ 10 未満	0

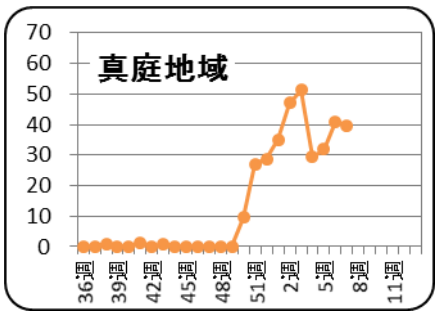


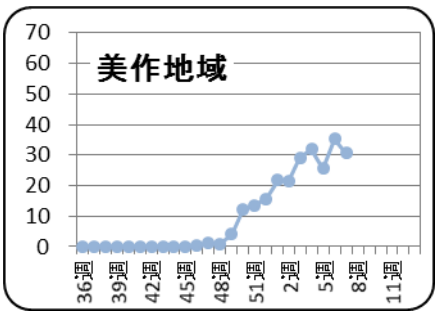


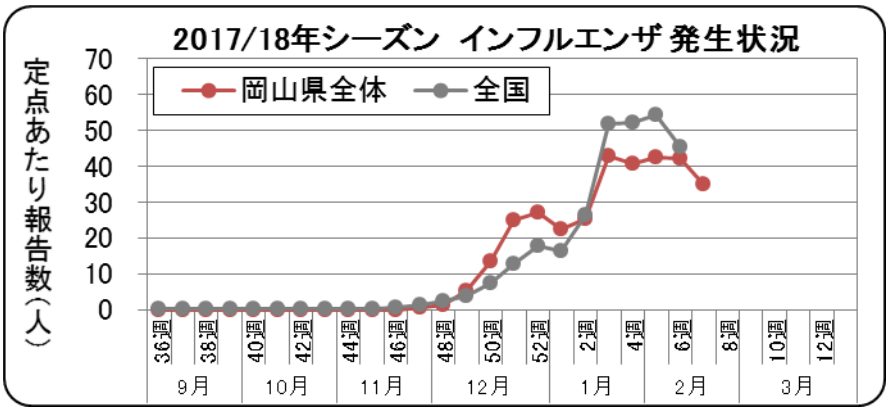










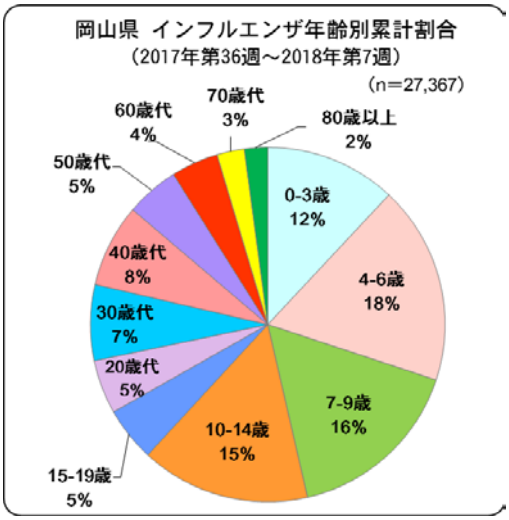


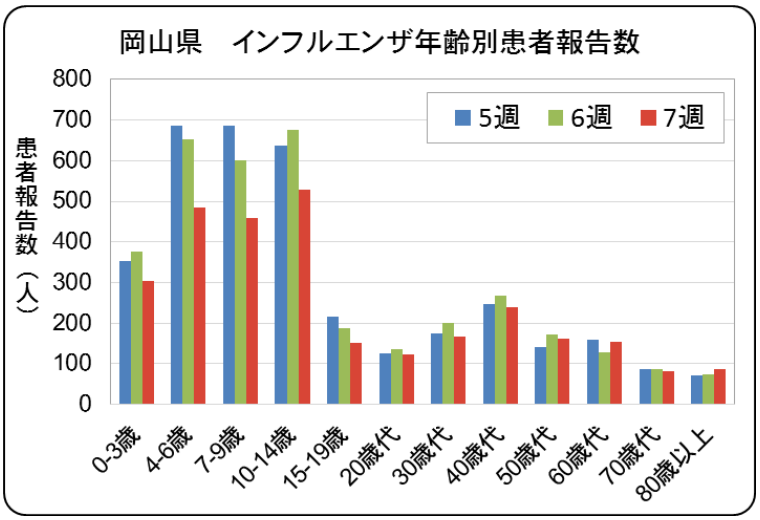
全国集計第 6 週（2/5～2/11）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 45.38 人となり、前週（54.33 人）より減少しました。都道府県別では、高知県（67.67 人）、山口県（62.82 人）、大分県（60.28 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、8 道県で前週の報告数よりも増加がみられました。

インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）

2.　年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、4－6 歳 18%、7－9 歳 16%、10－14 歳 15%の順で高くなっています。週別の患者報告数をみると、多くの年齢層で患者の減少がみられましたが、60 歳代と 80 歳以上で増加しています。



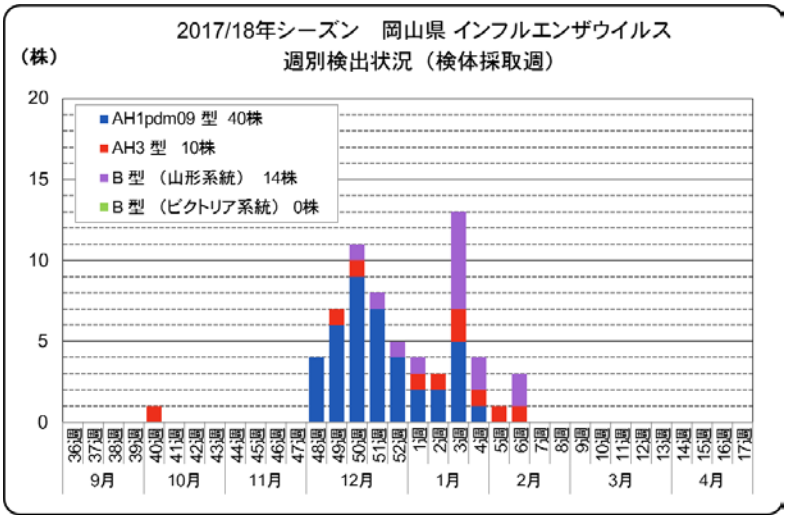


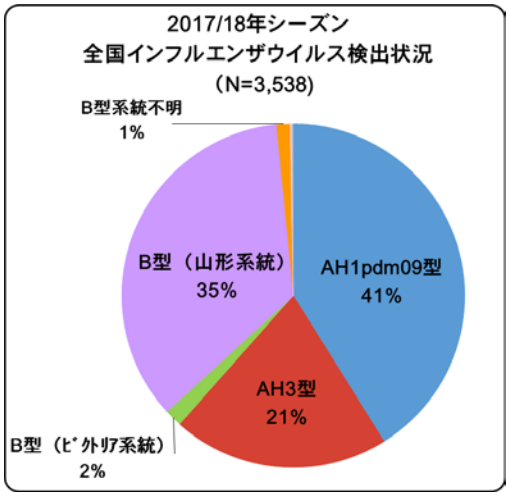
3.　インフルエンザウイルス検出状況

第 7 週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、6 株（詳細は下表参照）でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは 64 株で、その内訳は、AH1pdm09 型 40 株（62%）、AH3 型 10 株（16%）、B 型（山形系統） 14 株（22%）となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 型 41%、AH3 型 21%、B 型 38% 〔山形系統 35%・ビクトリア系統 2%・系統不明 1%〕となっています。（2018 年 2 月 16 日現在）

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH3型	2018年第6週(2/5～2/11)	2018/2/6	倉敷市	50代	男	
インフルエンザウイルスB型	2018年第6週(2/5～2/11)	2018/2/6	倉敷市	小学生	男	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2018年第6週(2/5～2/11)	2018/2/5	倉敷市	中学生	女	山形系統
インフルエンザウイルスAH3型	2018年第5週(1/29～2/4)	2018/1/29	倉敷市	20代	男	
インフルエンザウイルスB型	2018年第4週(1/22～1/28)	2018/1/24	倉敷市	小学生	女	山形系統
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2018年第3週(1/15～1/21)	2018/1/16	倉敷市	幼児	女	





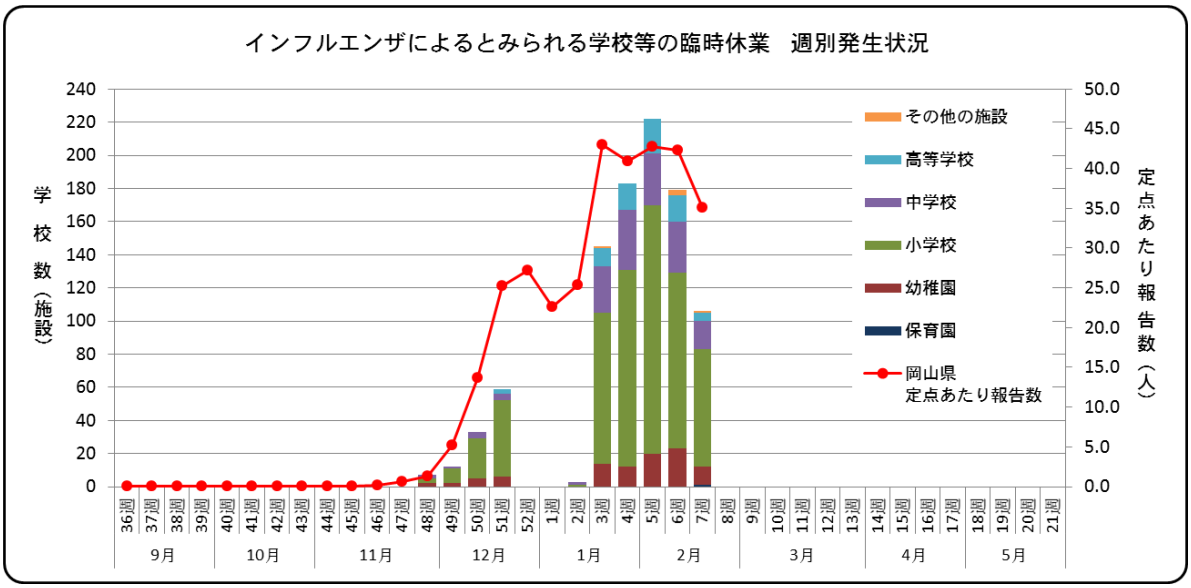
インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）

4.　インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 106 施設でありました。

【第 7 週　臨時休業施設数】

▽岡山市	47	▽倉敷市	16	▽総社市	6	▽津山市	5	▽井原市	4
▽赤磐市	4	▽玉野市	3	▽瀬戸内市	3	▽美作市	3	▽浅口市	3
▽高梁市	2	▽備前市	2	▽和気町	2	▽奈義町	2	▽笠岡市	1
▽新見市	1	▽真庭市	1	▽里庄町	1				



1）有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

＊地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名＊	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	**1544**	**13967**	**1197**	**11120**	**106**	**949**	**1**	**15**	**20**	**205**	**85**	**729**	**H29.11.27**
岡山市	695	5532	534	4245	47	351	0	2	5	38	42	311	H29.11.27
倉敷市	271	3150	201	2600	16	206	0	2	2	21	14	183	H29.11.27
備前地域	136	1357	124	1178	14	113	0	3	6	44	8	66	H29.12.13
備中地域	242	2108	177	1711	15	157	1	2	2	41	12	114	H29.12.5
備北地域	36	292	27	235	3	25	0	0	0	10	3	15	H29.12.4
真庭地域	25	239	22	200	1	21	0	1	1	14	0	6	H29.12.18
美作地域	139	1289	112	951	10	76	0	5	4	37	6	34	H29.12.4

2）臨時休業施設数の内訳

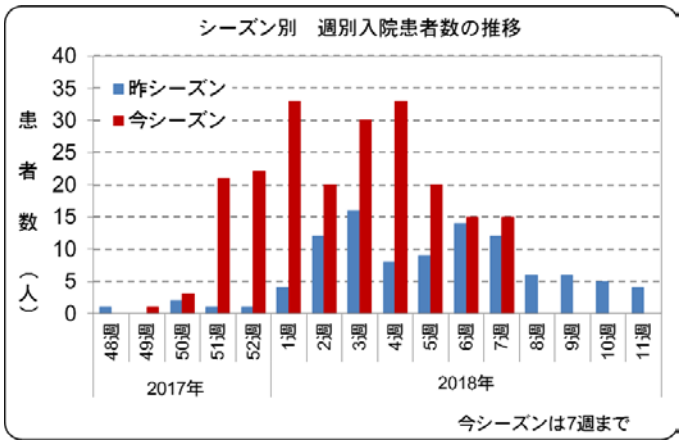
第 7 週：106 施設　　累計：949 施設

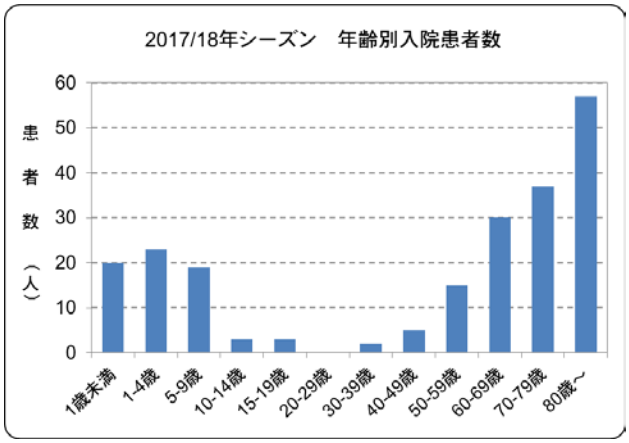
	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	**1**	1	**11**	95	**71**	620	**17**	156	**5**	72	**1**	5

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、15 名（1－4 歳 2 名、60－69 歳 2 名、70－79 歳 6 名、80 歳以上 5 名）の報告がありました。今シーズンの入院患者は、昨シーズンよりも多い状況です。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。





【第 7 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数		**2**								**2**	**6**	**5**	**15**
ICU 入室 ＊													
人工呼吸器の利用 ＊													
頭部 CT 検査(予定含) ＊										1	2	1	4
頭部 MRI 検査(予定含) ＊												1	1
脳波検査（予定含）＊													
いずれにも該当せず		2								1	4	4	11

＊ 重複あり

【2017 年 9 月 4 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数	**20**	**23**	**19**	**3**	**3**		**2**	**5**	**15**	**30**	**37**	**57**	**214**
ICU 入室 ＊		1							1	3	5	2	12
人工呼吸器の利用 ＊												1	1
頭部 CT 検査(予定含) ＊	1	3	2	1			1			5	4	10	27
頭部 MRI 検査(予定含) ＊	1	4	4	1			1			2		3	16
脳波検査（予定含）＊		6											6
いずれにも該当せず	18	14	13	2	3		1	5	14	23	29	46	168

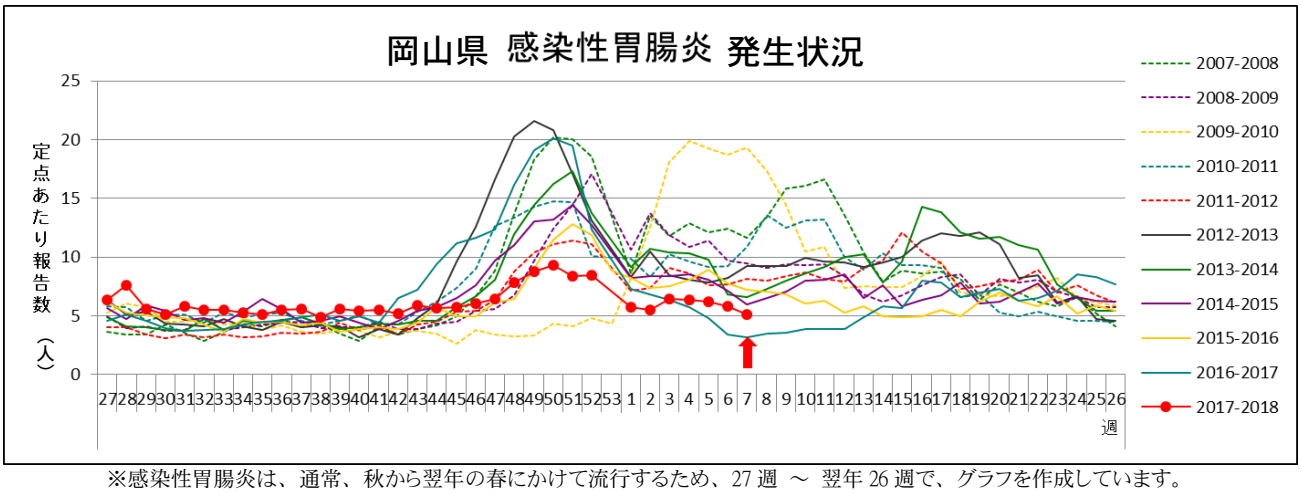
＊ 重複あり

2018 年 2 月 23 日

感染性胃腸炎週報　2018 年　第７週　（２月 12 日 ～ ２月 18 日）

➢ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で 275 名（定点あたり 5.09 人）の報告がありました。（54 定点医療機関報告）

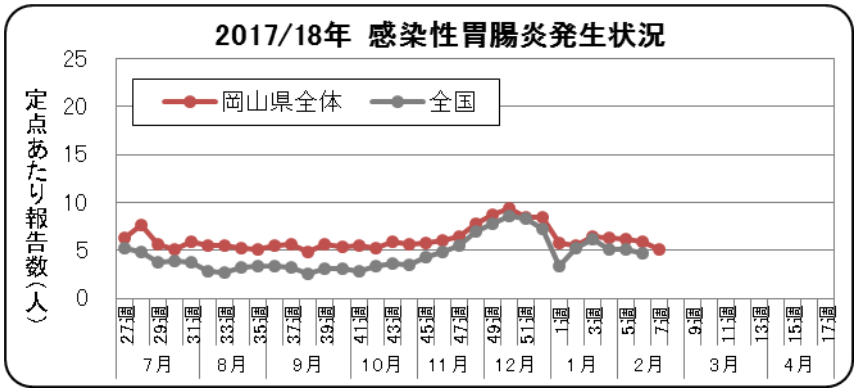


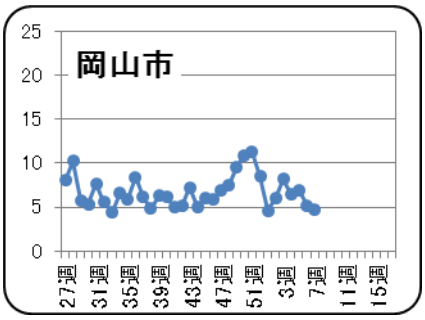
※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週 ～ 翌年 26 週で、グラフを作成しています。

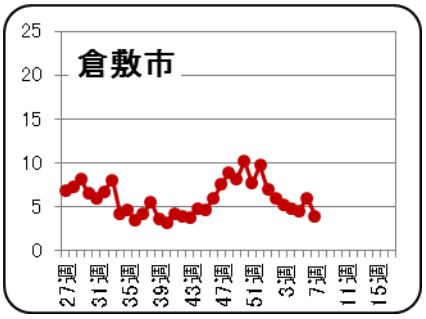
感染性胃腸炎は、県全体で 275 名（定点あたり 5.85 → 5.09 人）の報告があり、前週よりわずかに減少しました。

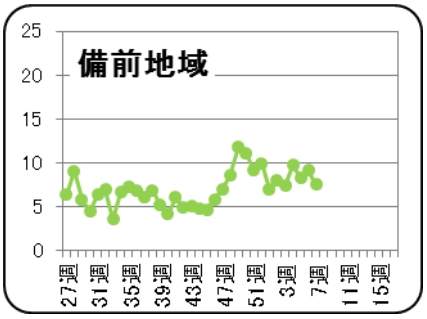
冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

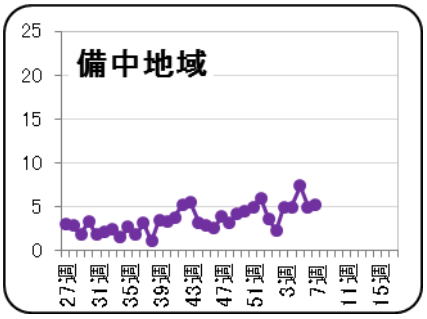
◆地域別・年齢別発生状況

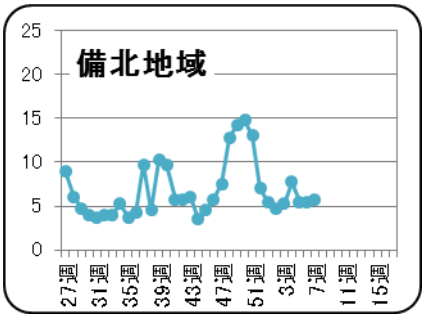


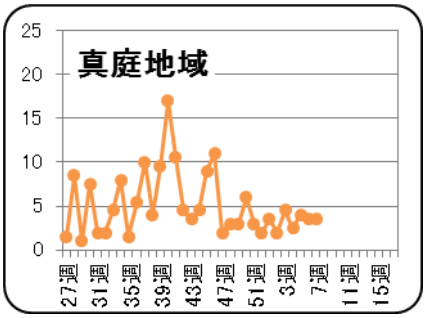


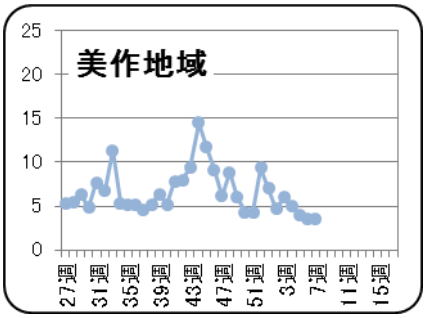


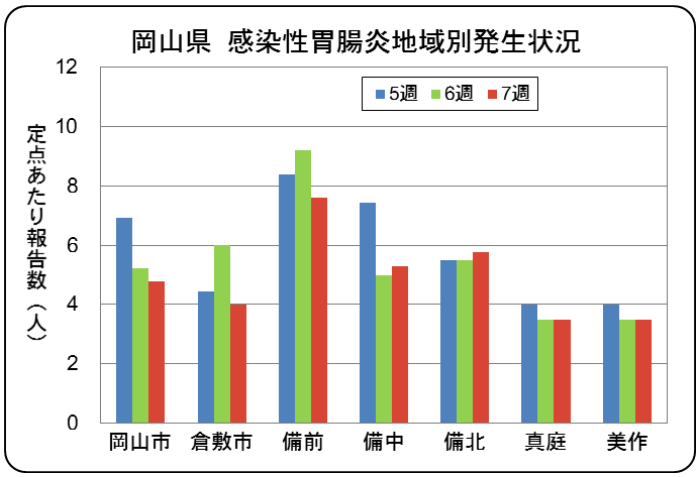


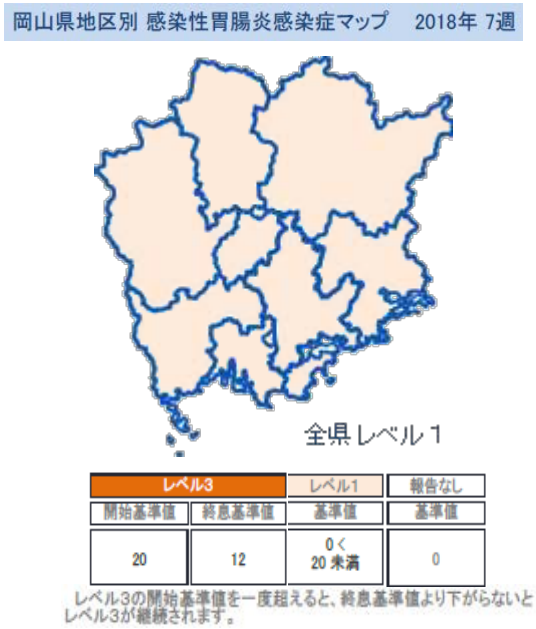


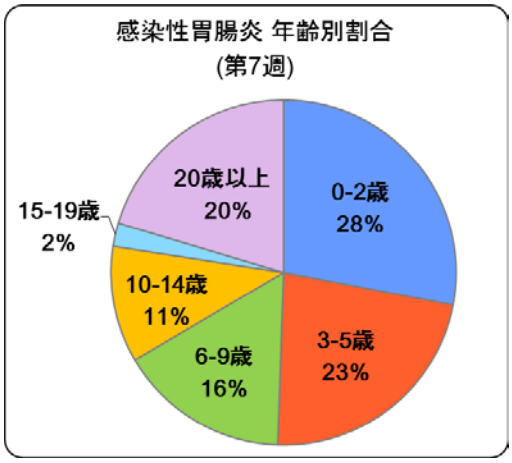












地域別では、備前地域（7.60 人）、備北地域（5.75 人）、備中地域（5.29 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

第 7 週年齢別割合では、0－2 歳　28%、3－5 歳　23%、20 歳以上 20% の順で高くなっています。

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理･食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で 1 分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水が利用可能である洗濯機があれば熱水洗濯、または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を 85～90℃で 90 秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

○ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省）
○ノロウイルス感染症とその対応・予防（家庭等一般の方々へ）（国立感染症研究所）
○ノロウイルス食中毒予防対策リーフレット（厚生労働省）
○ノロウイルス食中毒予防のための適切な手洗い（動画）（厚生労働省）

保健所別報告患者数 2018年 7週(定点把握)

(2018/02/12～2018/02/18)　2018年2月22日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2944	35.05	669	30.41	739	46.19	403	26.87	568	47.33	139	23.17	119	39.67	307	30.70
RSウイルス感染症	12	0.22	2	0.14	3	0.27	1	0.10	1	0.14	3	0.75	–	–	2	0.33
咽頭結膜熱	12	0.22	2	0.14	1	0.09	–	–	2	0.29	3	0.75	–	–	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	119	2.20	42	3.00	25	2.27	35	3.50	9	1.29	4	1.00	1	0.50	3	0.50
感染性胃腸炎	275	5.09	67	4.79	44	4.00	76	7.60	37	5.29	23	5.75	7	3.50	21	3.50
水痘	4	0.07	1	0.07	2	0.18	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
手足口病	5	0.09	1	0.07	3	0.27	–	–	1	0.14	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発疹	15	0.28	6	0.43	4	0.36	2	0.20	1	0.14	1	0.25	–	–	1	0.17
ヘルパンギーナ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	5	0.09	1	0.07	–	–	–	–	2	0.29	–	–	–	–	2	0.33
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	2	0.17	–	–	1	0.25	–	–	1	1.00					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.40	2	2.00	–	–					–	–	–	–	–	–

(– : 0 or 0.00)　(空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 7週（発生レベル設定疾患） （ 2018/02/12～2018/02/18 ） 2018年2月22日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2944	35.05	669	30.41	739	46.19	403	26.87	568	47.33	139	23.17	119	39.67	307	30.70
咽頭結膜熱	12	0.22	2	0.14	1	0.09	–	–	2	0.29	3	0.75	–	–	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	119	2.20	42	3.00	25	2.27	35	3.50	9	1.29	4	1.00	1	0.50	3	0.50
感染性胃腸炎	275	5.09	67	4.79	44	4.00	76	7.60	37	5.29	23	5.75	7	3.50	21	3.50
水痘	4	0.07	1	0.07	2	0.18	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
手足口病	5	0.09	1	0.07	3	0.27	–	–	1	0.14	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	5	0.09	1	0.07	–	–	–	–	2	0.29	–	–	–	–	2	0.33
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	2	0.17	–	–	1	0.25	–	–	1	1.00					–	–

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル３
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２　を示しています。

（－： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2018年　第7週　 2018/02/12～2018/02/18 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2944	5	20	74	84	121	126	163	195	171	152	135	528	152	124	168	240	162	153	83	88

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	12	1	2	6	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	12	-	3	3	1	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	119	-	1	5	9	14	18	13	9	5	11	9	22	-	3
感染性胃腸炎	275	7	15	29	26	27	15	20	9	13	13	9	30	6	56
水痘	4	-	-	-	-	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-
手足口病	5	-	-	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	15	-	5	8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1

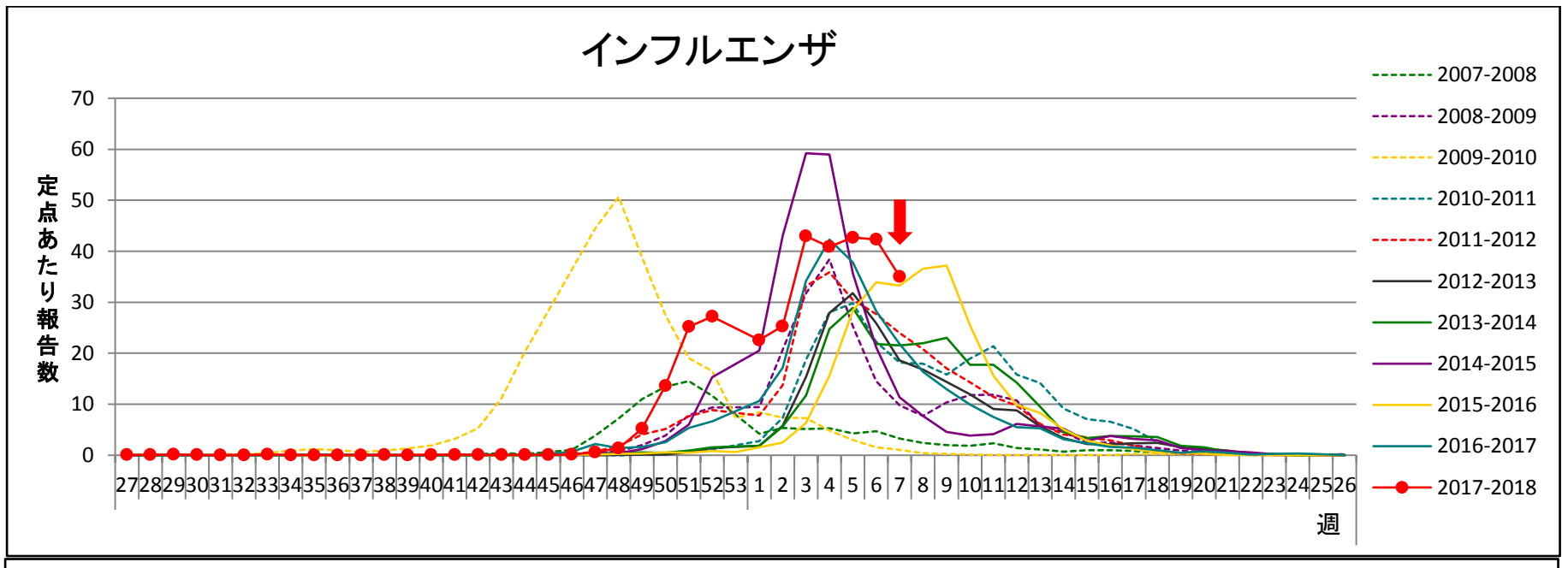
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

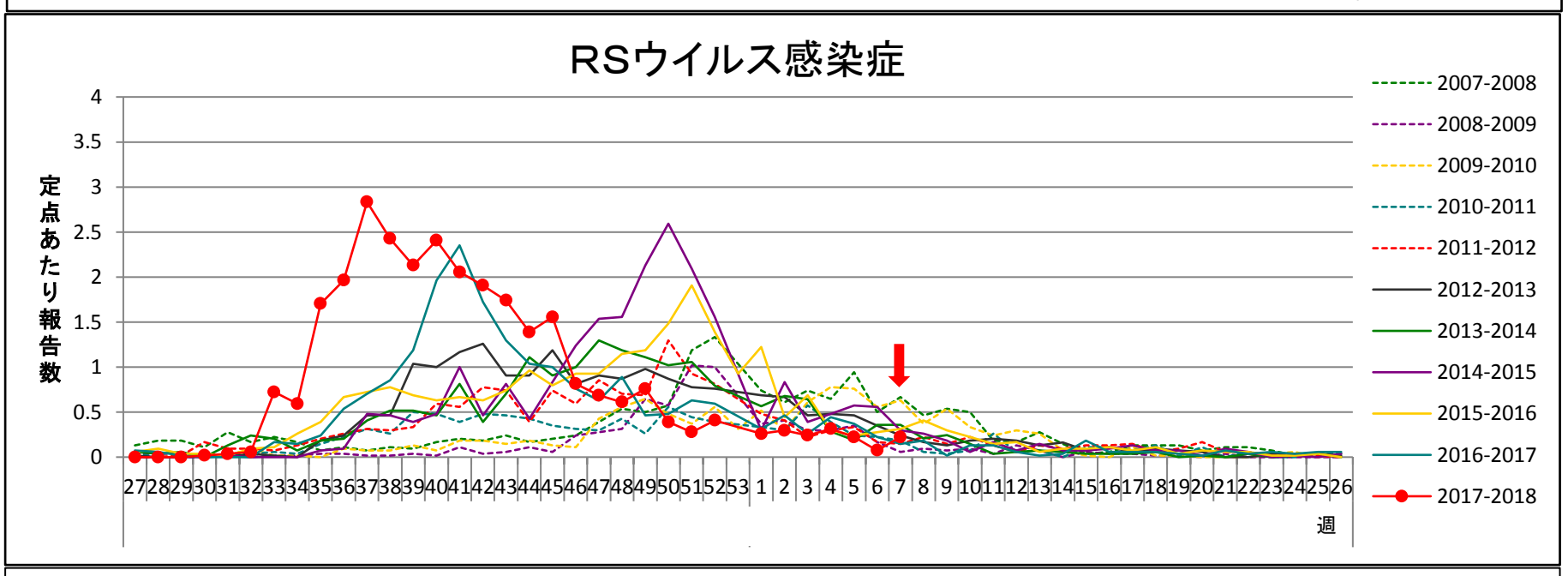
（ - ： 0 ）

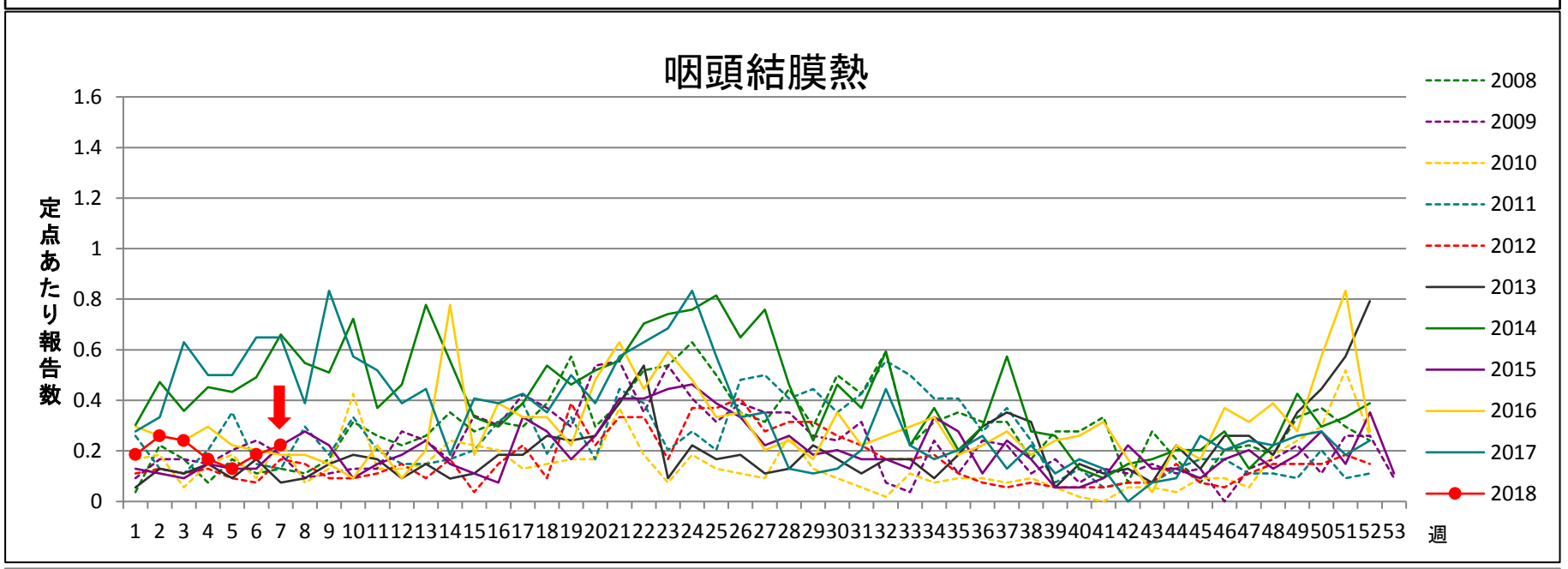
全数把握 感染症患者発生状況

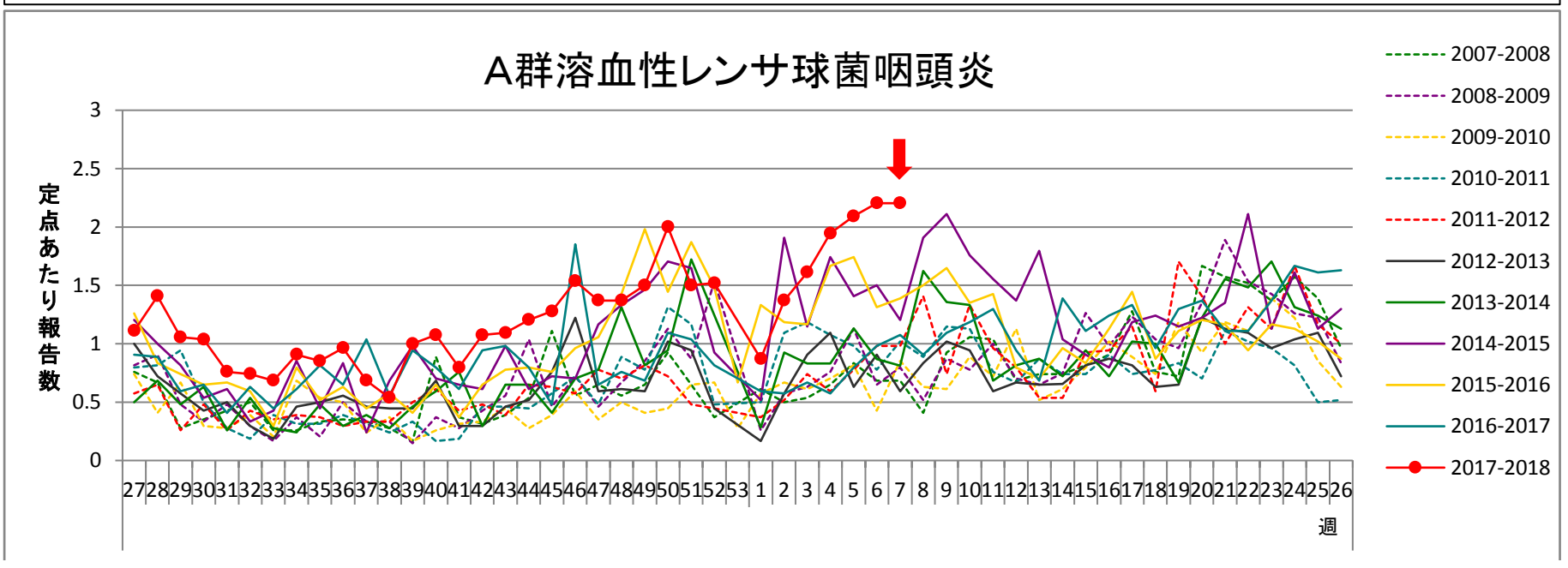
2018 年 7 週

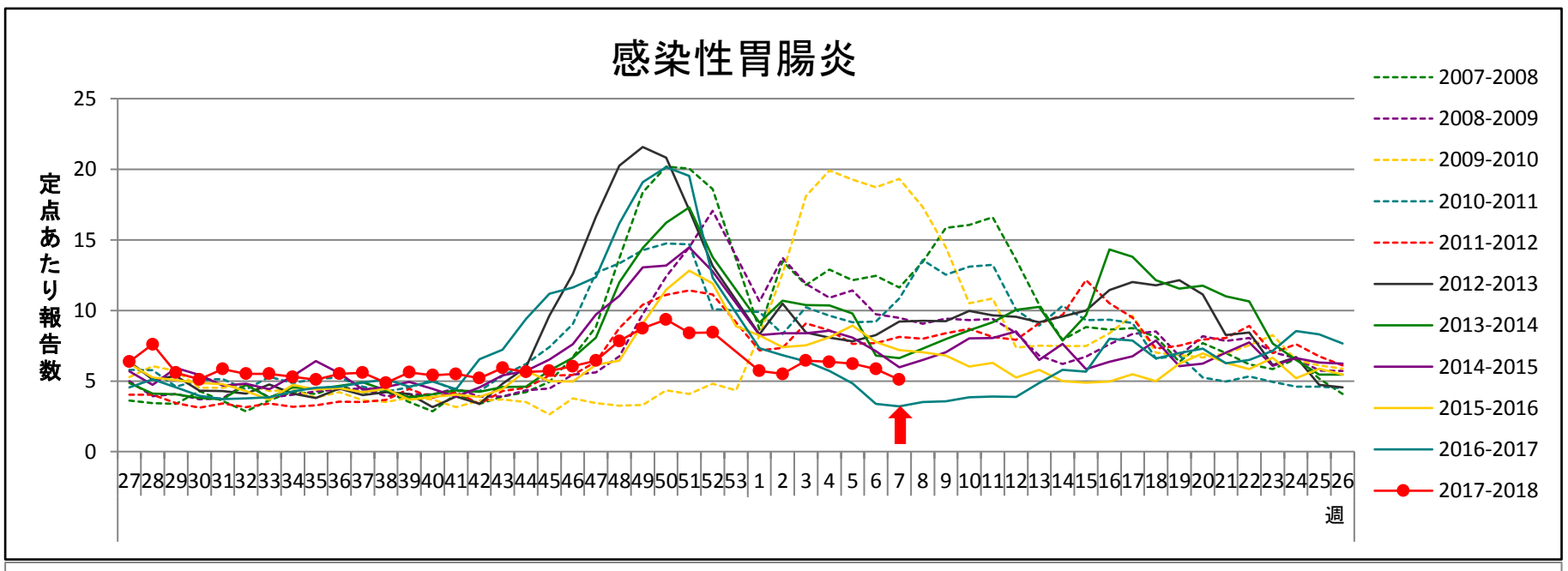
分類	疾病名	2018 今週	2018 累計	2017 昨年	疾病名	2018 今週	2018 累計	2017 昨年	疾病名	2018 今週	2018 累計	2017 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	6	40	370	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	中東呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–
	鳥インフルエンザ（H7N9）	–	–	–		–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	2	細菌性赤痢	–	–	3	腸管出血性大腸菌感染症	–	–	70
	腸チフス	–	–	1	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	1	1	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	–	5
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	ジカウイルス感染症	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	–
	腎症候性出血熱	–	–	–	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–
	炭疽	–	–	–	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	1	1
	デング熱	–	–	2	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–
	ニパウイルス感染症	–	–	–	日本脳炎	–	–	–	日本紅斑熱	–	–	7
	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–
	ブルセラ症	–	–	–	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–
	発しんチフス	–	–	–	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	–
	野兎病	–	–	–	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–
	リフトバレー熱	–	–	–	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	–	4	30
	レプトスピラ症	–	–	–	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	2	22	ウイルス性肝炎	–	–	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	–	3	17
	急性脳炎	–	1	8	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	–	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	4	9	後天性免疫不全症候群	–	2	22	ジアルジア症	–	–	–
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	–	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	–	侵襲性肺炎球菌感染症	3	9	36
	水痘（入院例に限る。）	–	–	6	先天性風しん症候群	–	–	–	梅毒	1	18	172
	播種性クリプトコックス症	–	1	1	破傷風	–	–	–	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	–	–	–
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	–	7	百日咳	–	19	–	風しん	–	–	–
	麻しん	–	–	–	薬剤耐性アシネトバクター感染症	–	–	–		–	–	–

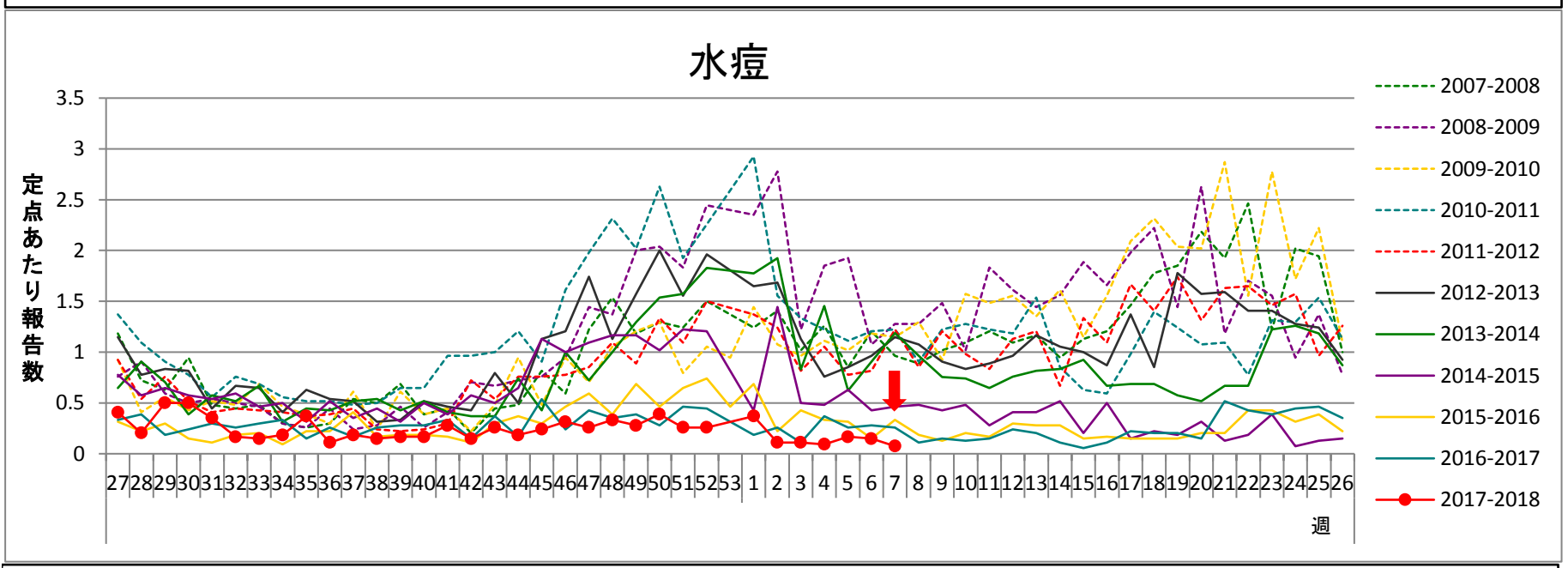

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

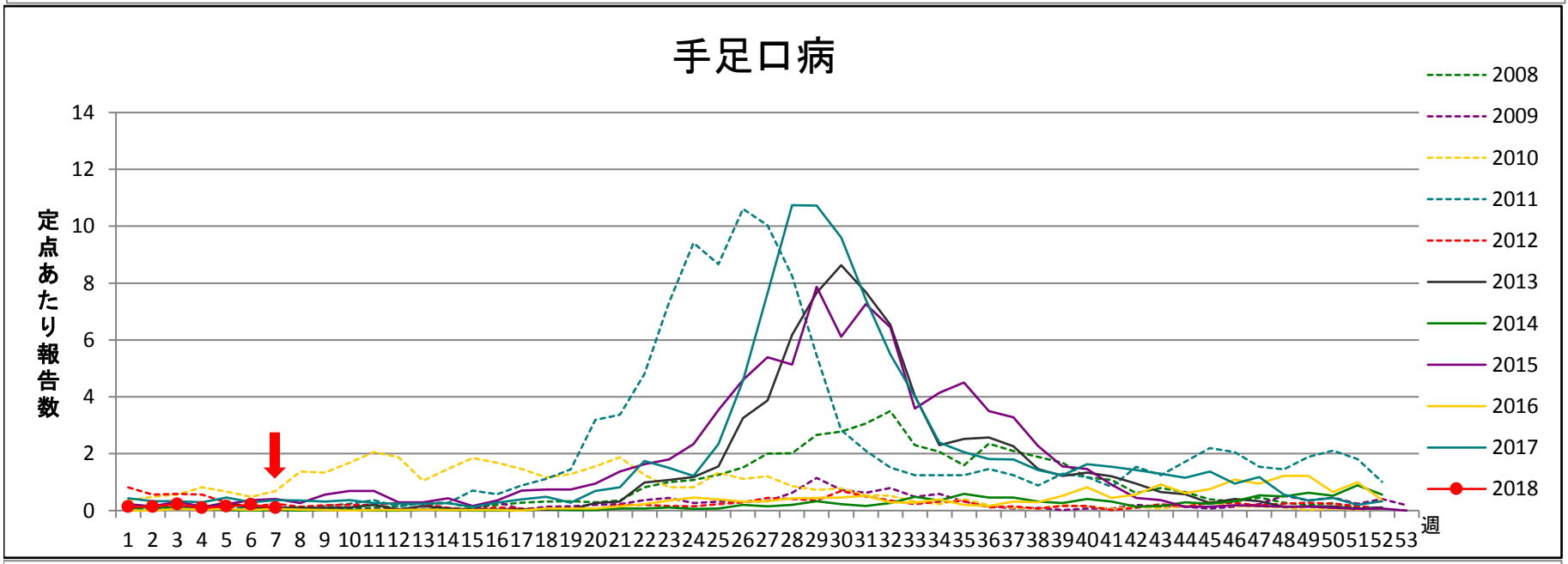

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

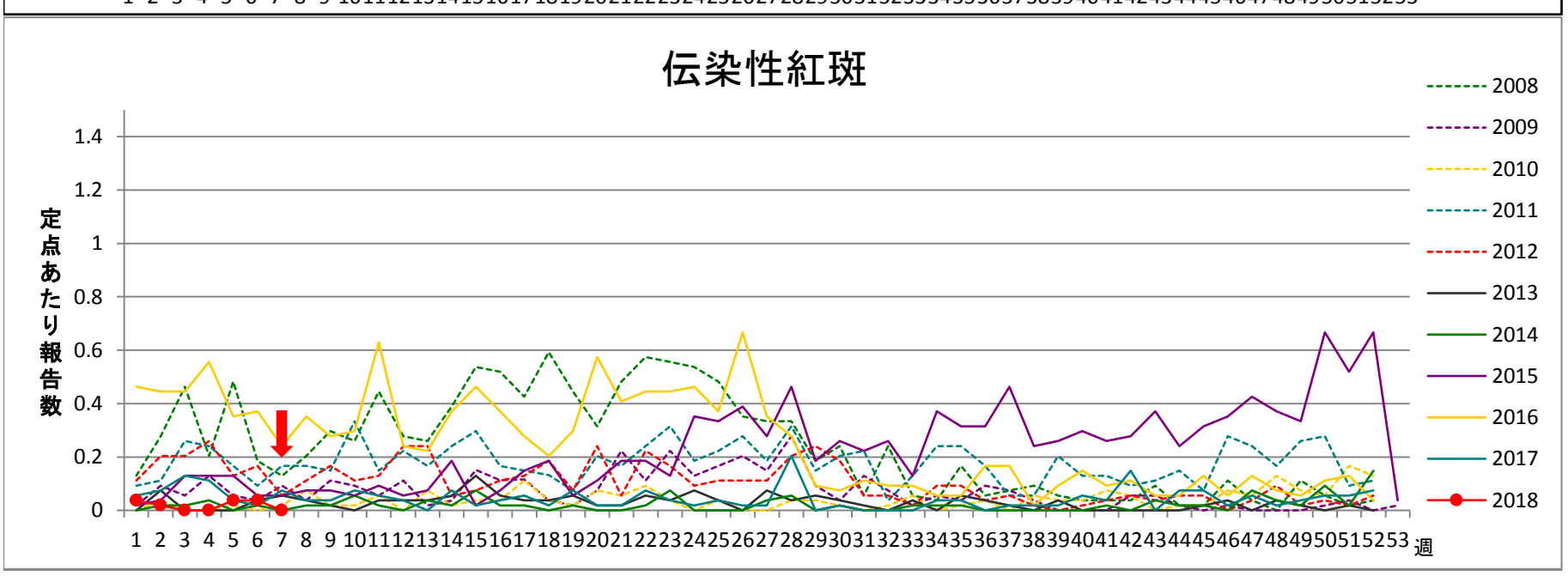

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

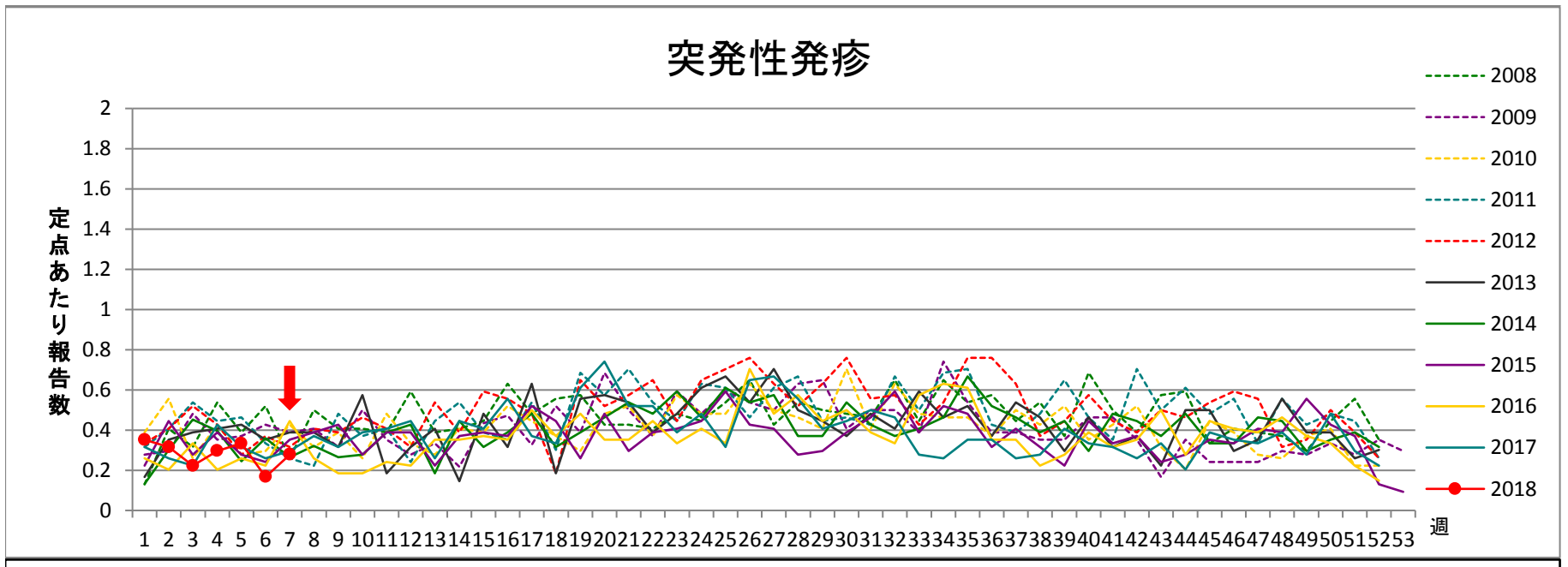

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

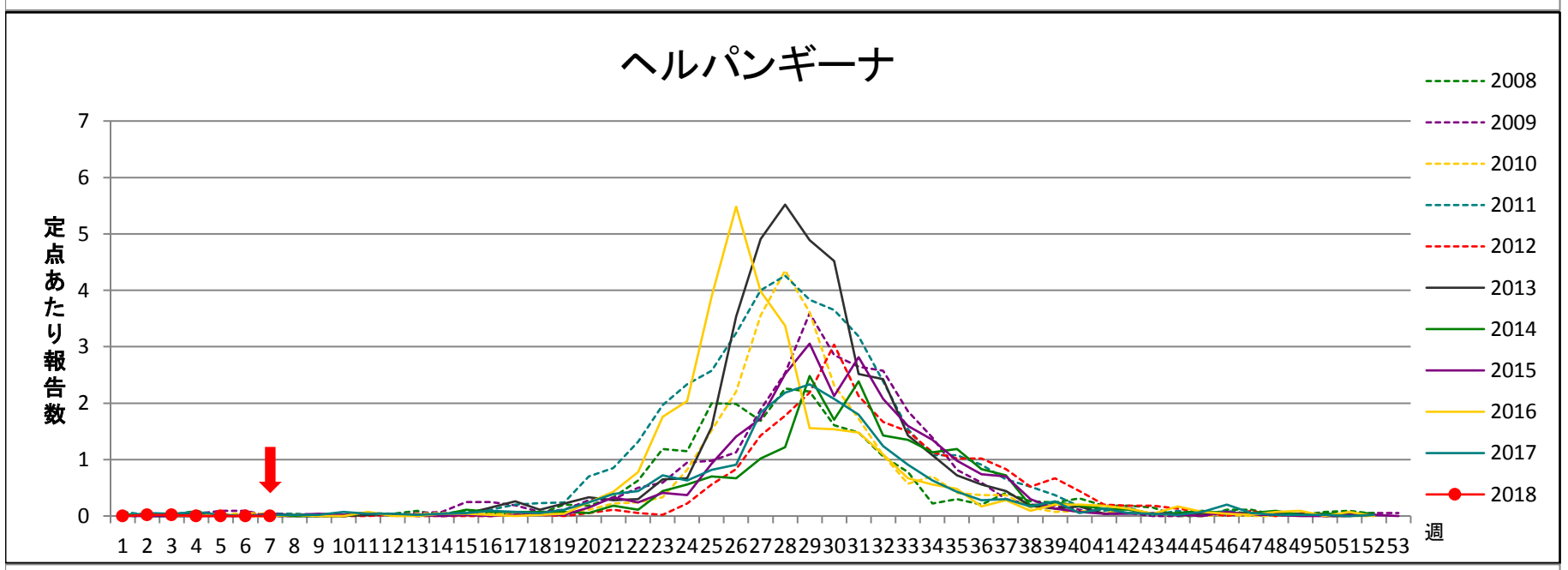

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

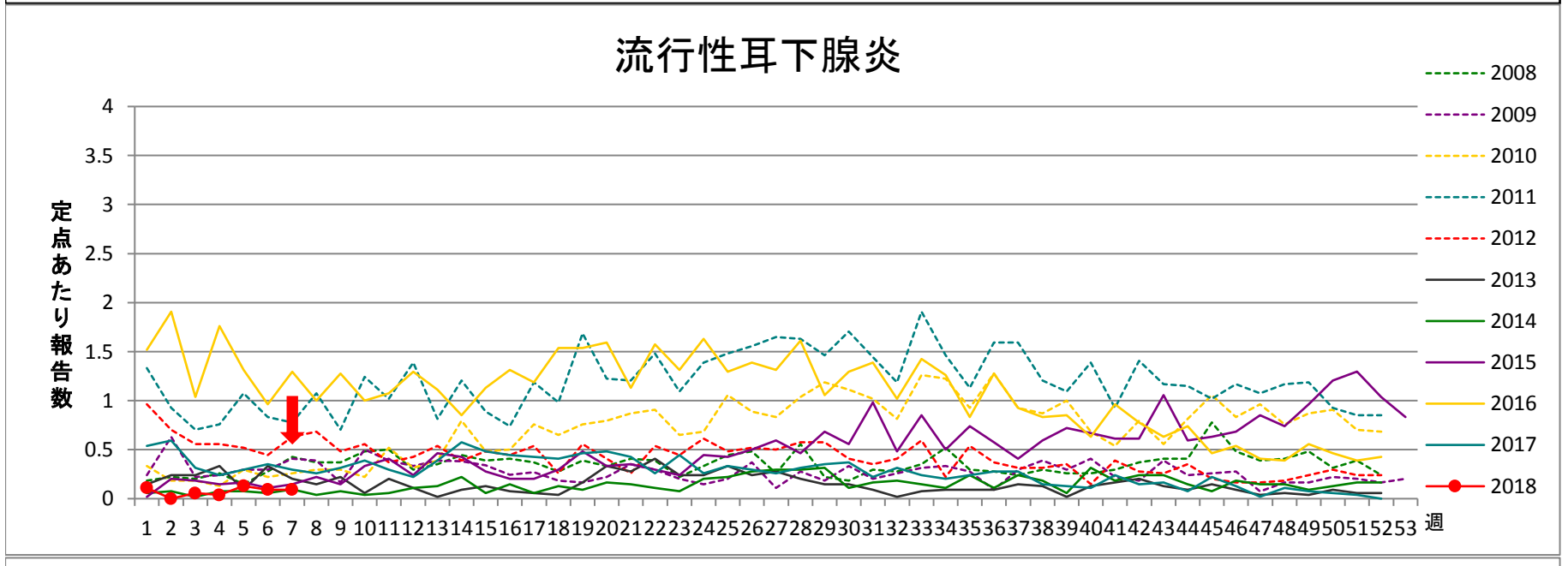

水痘
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

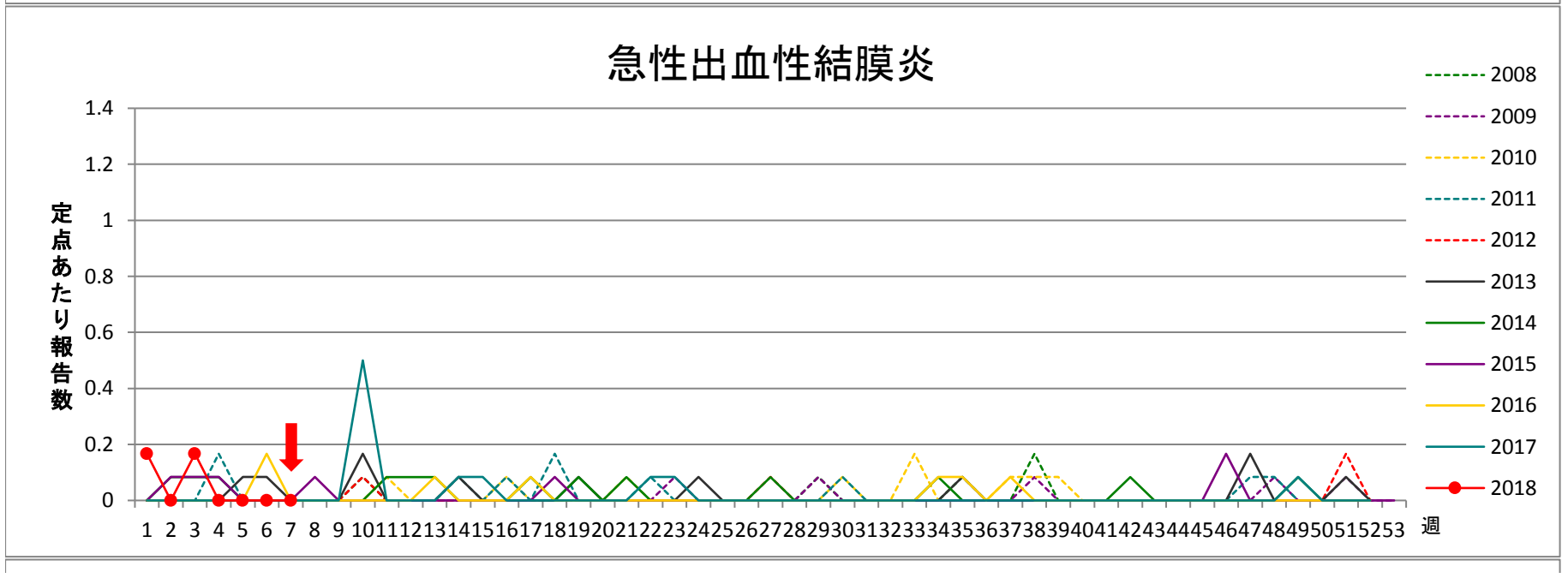

手足口病
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

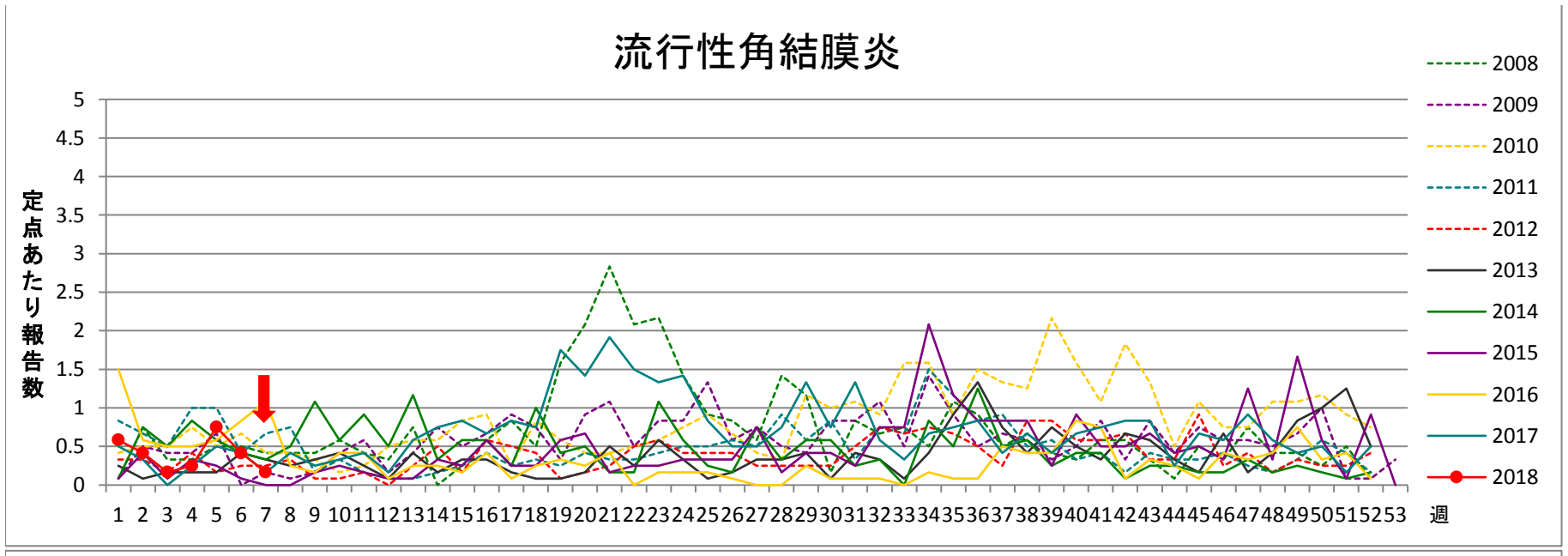

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

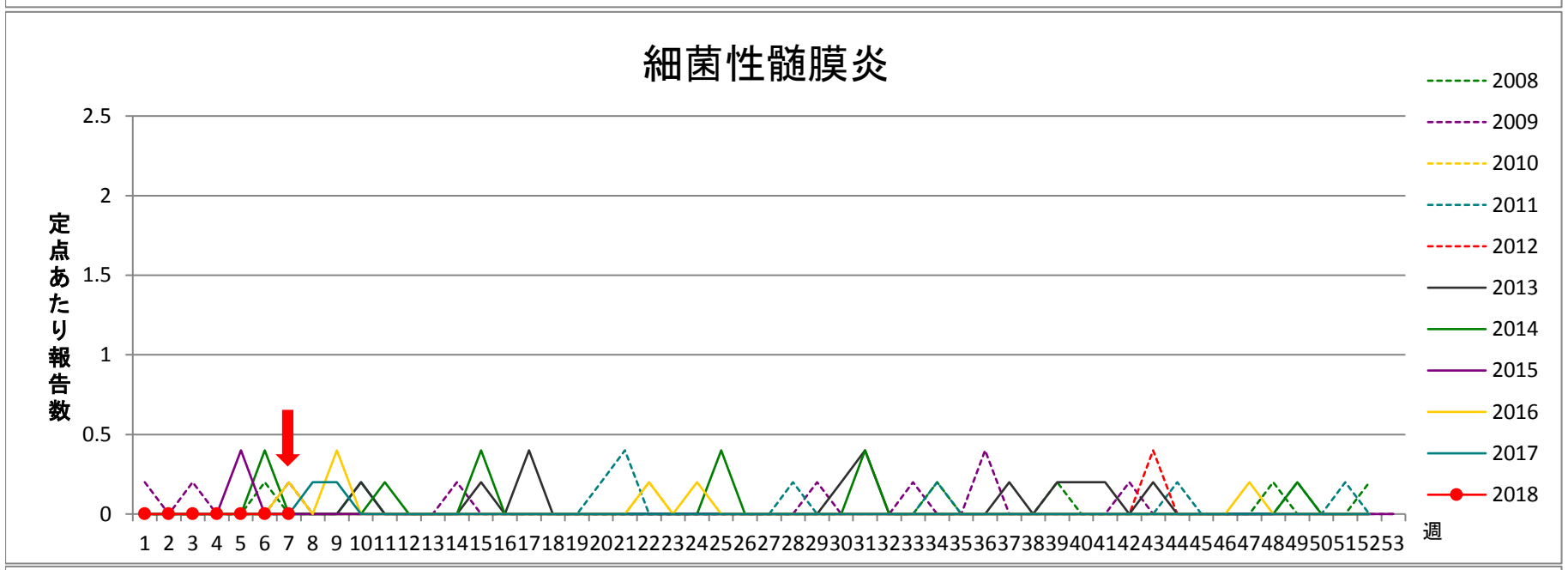

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

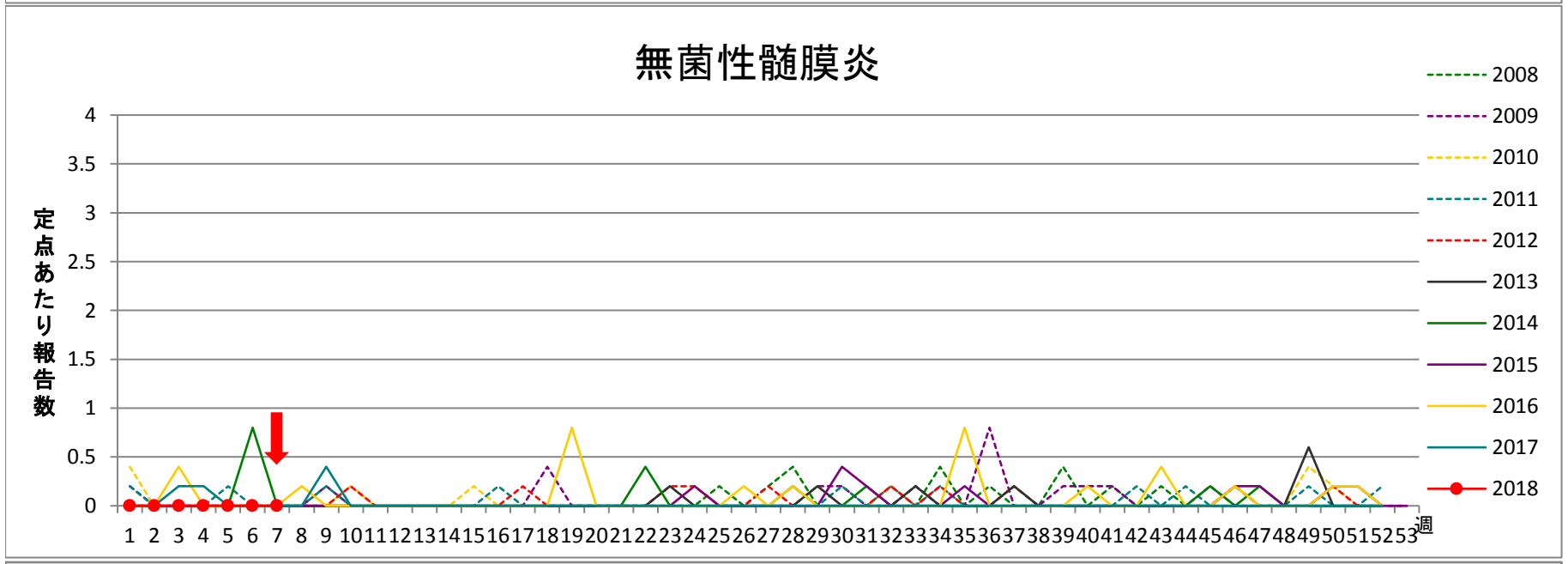

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

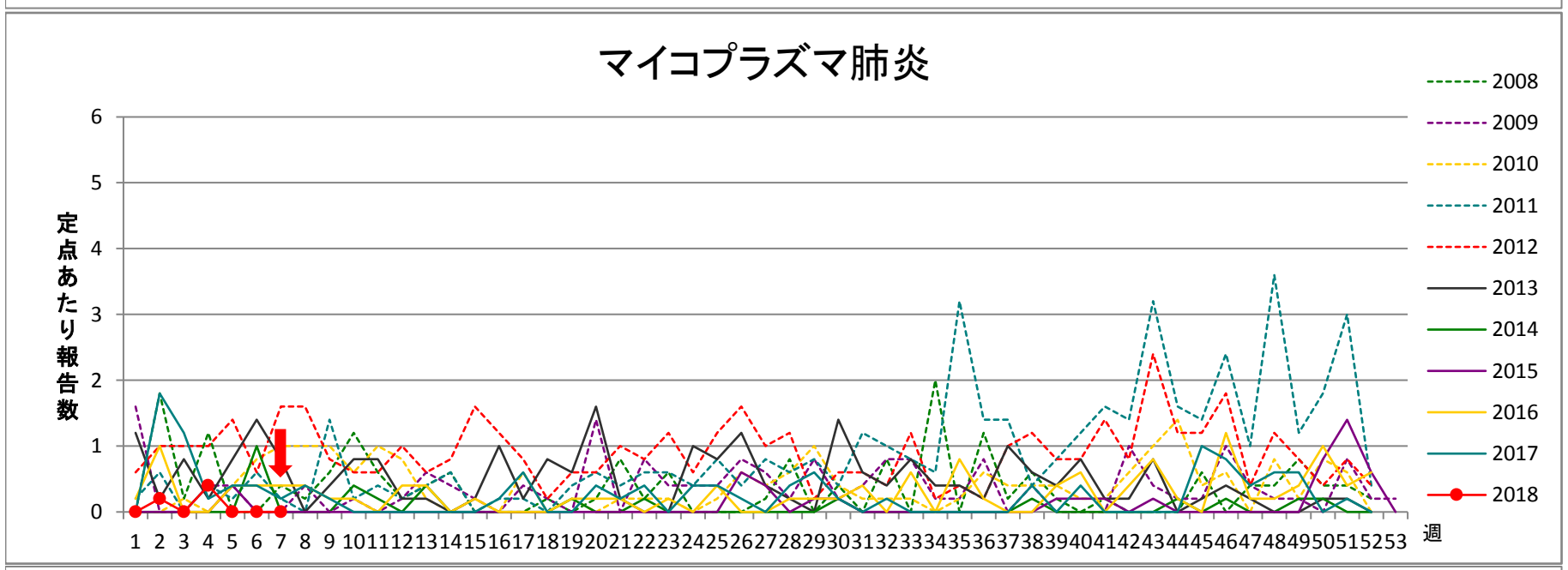

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

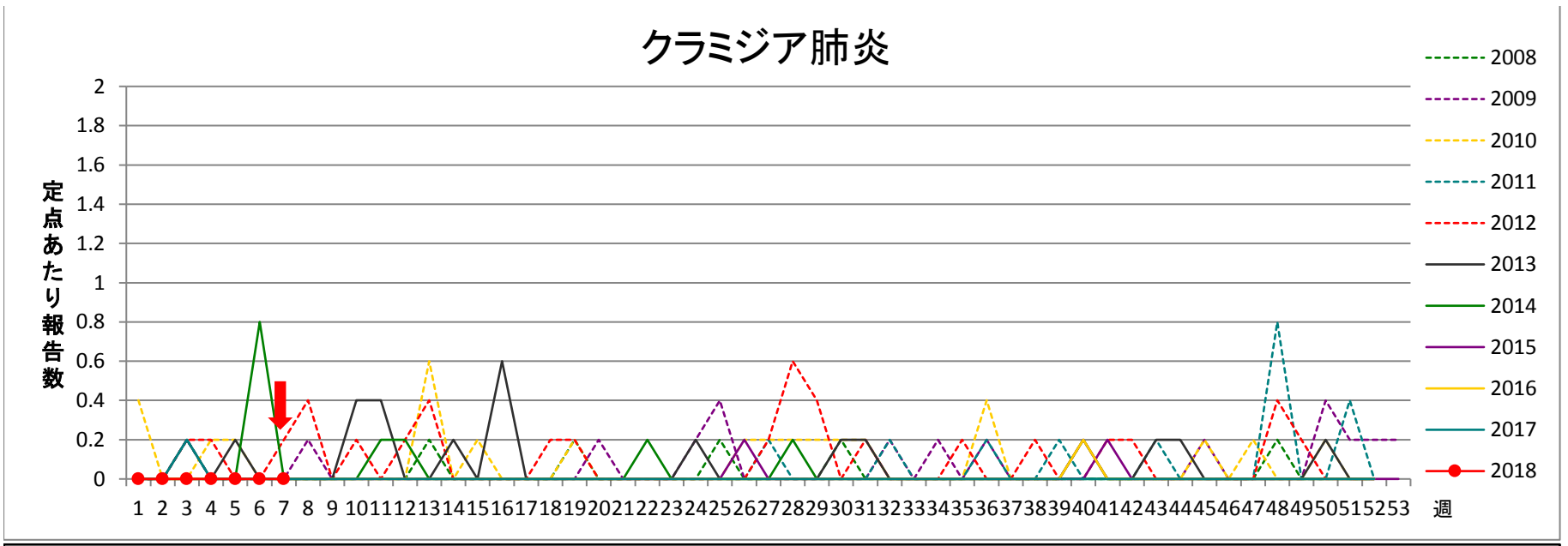

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

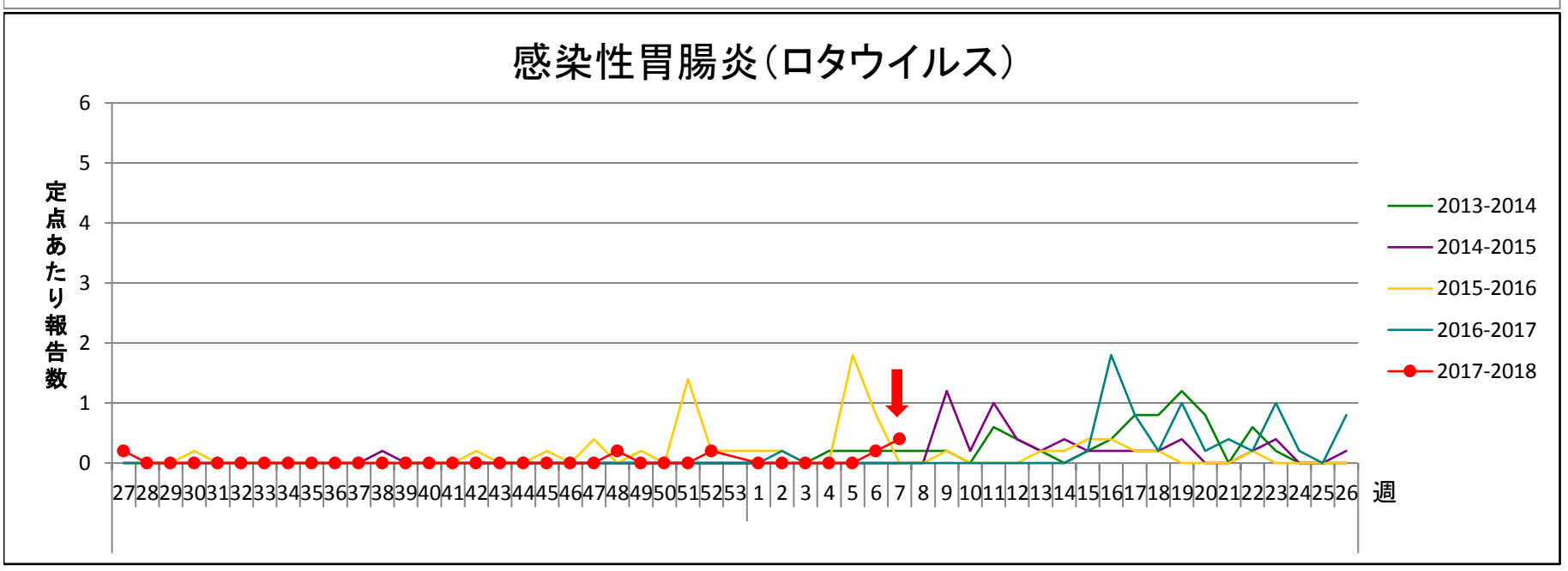

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018